

東京市商工課

大東京貿易概況

604-136



604
136

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

inches
cm

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue	Cyan	Green	Yellow	Red	Magenta	White	3/Color	Black

大東京貿易概況

東京市商工課

604-136

序 言

- 一、本稿は昭和三年「大東京の地域内に於て全部又は一部に付生産又は加工せられたる商品」の生産、取引、輸出の概況を示すことを目的とする。
 - 二、従來東京貿易に關しては統計的考察を施したる刊行物がないので、本書の大部分をその統計的方面の調査に向ける。
 - 三、本稿は右の如き企圖を以て起稿したものであるが、材料の蒐集極めて困難であつたため本書の内容には更に推敲修正を加ふべき個所のあるやも計られないが、之等の點に就て高教を賜はらば幸甚である。
 - 四、本稿の材料を蒐集するに當つては諸官廳、諸公共團體、各種組合及び輸出入關係の諸氏に負ふところが多し。
- 特に各商品の輸出狀況に就ては各種組合の御教示に負ふところが最も多し。こゝに深厚なる敬意と謝意とを表す。

昭和五年三月

東京市商工課

第一節 輸出貿易……………二九

第二節 輸入貿易……………三一

第三篇 東京重要輸出商品概況

第一章 穀物穀粉澱分及種子……………三五

小麥粉……………三五

第二章 飲食物及煙草……………三八

精糖……………三八

麥酒……………四〇

煉乳……………四二

罐及罐詰……………四三

第三章 皮毛骨角牙類及同製品……………四八

革……………四八

象牙製品……………四九

第四章 油脂蠟及同製品……………五一

石鹼……………五一

發行所 東京 本

第五章 藥材化學藥類及爆發藥……………五四

沃度及沃度加里……………五四

硫化曹達……………五七

晒紛……………五八

衛生材料……………五九

賣藥……………六〇

第六章 染料顏料塗料及填充料……………六一

鉛筆……………六一

インキ……………六五

第七章 絲縷索及同材料……………六六

綿織絲……………六六

第八章 布帛及同製品……………六八

綿織物……………六八

毛織物……………七一

蒲團……………七四

第九章 衣類及同附屬品

四

莫大小製品.....七四

シャツ類.....七六

絹製品.....七九

帽子.....八〇

革製靴.....八二

スリッパ.....八三

洋服.....八四

第十章 紙及同製品

八五

紙.....八五

書籍雜誌及印刷物.....八七

第十一章 礦物及同製品

八九

セメント.....八九

第十二章 陶磁器及硝子類

九一

陶磁器.....九一

硝子製品.....九二

第十三章 鑛及金屬

九六

鐵.....九六

銅.....九七

第十四章 金屬製品

九八

絶縁電線.....九八

農具及工匠具.....一〇〇

銅製品.....一〇一

眞鍮製品.....一〇二

青銅製品.....一〇三

ブロンズ工藝品.....一〇四

アンチモニー製品.....一〇五

アルミニウム製品.....一〇七

ニッケル鍍金製品.....一〇八

鐵製品.....一〇九

五

第十五章 時計學術器船車及機械類

掛時計及置時計……………一二〇

醫療器……………一二一

理化學器及其他學術器……………一二三

樂器……………一二四

人力車及同部分品……………一二五

自轉車及同部分品……………一二六

電氣機械……………一二八

電話機……………一二九

金屬工木工機及同部分品……………一三〇

印刷機……………一三三

第十六章 雜品

木材……………一三三

麻真田……………一三四

木製品……………一三六

ブラッシュ……………一三七

電球ランプ及同部分品……………一三九

行李、旅櫃、提囊類……………一三二

造花……………一三三

セルロイド翫具……………一三五

ゴム翫具……………一四二

金屬製翫具……………一四六

布帛製翫具……………一四七

其他ノ翫具……………一四七

肥料……………一四九

附 錄

第一 昭和三年本邦橫濱港東京製品輸出額……………一五三

第二 昭和三年本邦橫濱港輸入額……………一六四

大東京貿易概況

—生産から見たる東京輸出貿易—

第一篇 總說

第一章 本邦貿易



昭和三年に於ける本邦（内地及樺太）の外國貿易は輸出十九億七千九百九十五萬五千圓、輸入二十一億九千六百三十一萬四千圓、輸出入合計四十一億六千八百二十六萬九千圓で差引二億二千四百三十五萬九千圓の輸入超過である。之を前年と比較すれば輸出は二千三十六萬二千圓（一・〇二%）を減じ輸入は千七百十六萬一千圓（〇・七九%）を増し合計に於ては三百十二萬一千圓（〇・〇八%）を減じ入超は三千七百五十二萬三千圓の増加である。

貿易額前年比較 (單位千圓)

	昭和三年	昭和二年	増減(△ハ減)	同上割合
輸出	一、九七、九五五	一、九三、三二七	△三〇、三六三	△一〇二
輸入	二、九六、三二四	二、二七、九一五	一、七、一六一	〇七九
計	四、一六、三六九	四、一七、四七〇	△三、一〇一	△〇〇八
入超	二、二四、三五九	一、八六、八三六	三七、五二三	—

尙右貿易額に加ふるに臺灣及朝鮮に於ける貿易額を以てすれば本邦對外貿易總額は輸出二十億三千七百餘萬圓、輸入二十三億七千二百餘萬圓、輸出入合計四十四億千余萬圓となつて入超は三億三千四百余萬圓で前年に比すれば輸出は二千七百餘萬圓(一・三二%)を減じ輸入は千四百餘萬圓(二・六九%)を増し合計に於ては千二百餘萬圓(〇・二九%)を減じ入超は四千百餘萬圓を増加したることなる。

本年の貿易は年初頗る順調の経過を示し沈滞せる財界に一道の光明を與ふる所あつたが六月に至るや輸出漸く減少を見せ、輸入は逐減したが其足取り比較的緩かに前途早くも不安の兆を見せた。然し上半期だけで言へば入超額は二億三千四百萬圓で喰止められ、前年に比し六千三百萬圓の輕減を記録する事が出来た。然るに積極的改善を期待された出超期たる七月以降は輸出が豫想の如く伴はないで、

輸入は返つて増大する趨勢となり、出超の程度は七月中旬以來前年に比べ著しく減少し、十一月中旬には僅かに六十一萬圓で、十一月下旬に入るや一轉して千五十萬圓の大入超を示した。即ち前年に比し二旬も早く入超期を招來し爾後の貿易尻も芳しくなくて、輿論の要望する金解禁も可なり暗影を感ずるに至つたのである。

月	輸出	輸入	出入(△)超過	月	輸出	輸入	出入(△)超過
一月	一四四、三九五	一九一、九九六	△四七、六〇一	七月	一六一、〇六九	一六三、二〇三	△二一、一三四
二月	一六〇、七七〇	二〇〇、九九六	△四〇、二二五	八月	一八九、三〇八	一五六、〇一一	二二、七一一
三月	一六九、二八八	二二三、六二三	△五四、三三四	九月	一七三、三八九	一五八、六六七	一一、七二二
四月	一五九、七六七	一八八、〇五三	△二八、三二六	十月	一七九、六九九	一七〇、七四一	八、九五八
五月	一六四、九一一	二〇一、九六五	△三七、〇五三	十一月	一五三、四二四	一六五、三六八	△一一、九五四
六月	一四四、一五〇	一七三、八〇六	△二八、六五四	十二月	一七三、八七〇	二〇二、八八二	△二九、〇一二

かくの如く貿易不振であつた一般的原因の主なるものは、爲替の不安定、對支問題(排日貨)殊に各地華僑の排日貨、南洋諸國の購買力減退、印度の關稅引上等である。

は返り本邦對外爲替相場は三月の四十八弗を最高とし八月の四十五弗半を最低として變動頗る多かつ

たことは輸出入採算の決定を困難ならしめ延て貿易上に及ぼした影響相當大なるものがある。

昭和三年 對米爲替相場變動表 (正金建値)

	最高	最低	最高	最低
一月	四七一	四六五分ノ八	七月	四六二分ノ一
二月	四六八分ノ七	四六八分ノ七	八月	四五三分ノ一
三月	四八一	四六八分ノ七	九月	四五八分ノ七
四月	四七八分ノ一	四七二分ノ一	十月	四七三分ノ一
五月	四七八分ノ七	四六八分ノ一	十一月	四六四分ノ三
六月	四六四分ノ三	四六八分ノ三	十二月	四六分ノ一

對支問題は濟南事件によつて惹起され日貨排斥となり本邦對支貿易の之がため其の發展を阻止せられたることは否むべからざることであるが實績に於ては本邦から彼地輸入の經路は從來と稍趣を異にし一方に減じて他方に増進した等彼此の平均は寧ろ稍前年に増すの成績を擧ぐるを得たが南洋方面には同じく本邦品に對する華僑の策動があり之に加ふるに護謨下落に因る購買力の減少によつて本邦輸出の減少を示した外綿絲布の輸出不振、生絲の對米輸出の量に於て増加した割合に絲價安のため却て前年に比し價額の減退を示した等相俟て前記の輸出減退を見るに至つた。又輸入に在つては太宗た

る棉花が内地に於ける其製品の需要及輸出の不振、操業の短縮等のために著しい減退を示した外に米及靱の大減少があり唯、鐵、豆類、小麥、羊毛等若干主要品の増進に依つて前年に比し幾分の増進に終つた。

本年の貿易を主要對手國別に觀るに輸出に於ては北米合衆國の八億二千六百萬圓第一位を占め以下支那の三億七千三百萬圓、英領印度の一億四千六百萬圓、關東州の一億一千萬圓、蘭領印度の七千三百萬圓、佛蘭西の六千三百萬圓、英吉利及香港の各五千萬圓等の順位に在る。之を前年に比較すれば次の如し。

國別輸出貿易額 (單位千圓)

國名	昭和三年	昭和二年	國名	昭和三年	昭和二年
支那	三七、一四一	三三、一八三	關東州	一〇、一九〇	九、二七〇
香港	五、五三八	六、五三八	英領印度	一四六、〇〇六	一六七、五八〇
海峽殖民地	二〇、四四九	三六、六五七	蘭領印度	七、四二四	八、五八一
露領亞細亞	一一、一九七	七七、七六	比律賓諸島	二九、〇五四	三二、八三四
英吉利	五、九〇四	六四、九二九	佛蘭西	六三、四〇八	五四、〇四五
獨逸	一三、五八一	一〇、六二二	北米合衆國	八三六、二四二	八三三、八〇四

加奈院	二七,〇四七	埃及	三三,七一四	二九,〇〇六
喜望峯殖民地 及ナタル	一一,六九四	濠太刺利	四三,〇〇〇	五〇,五六六
其他諸國	八五,八二二	計	一九七,九五五	一九九,三二七

輸入に在つては首位を占むるものは同じく北米合衆國の六億二千五百万圓で英領印度の二億八千五百万圓、支那の二億三千四百万圓、英吉利の一億六千四百万圓、關東州の一億五千万圓、獨逸の一億三千三百万圓、濠洲の一億三千万圓、蘭領印度の一億一千二百万圓等重なるもので、之を前年と比較すれば次の如し。

國別輸入貿易額 (單位千圓)

國名	昭和二年	昭和二年	國名	昭和三年	昭和二年
支那	三三四,五四七	二二六,〇三四	關東州	一五〇,四三九	二二二,四四七
英領印度	二八五,四七〇	二七〇,五九二	海峽殖民地	三三,七四四	三五,八七三
蘭領印度	一一三,〇三八	一〇三,七七五	佛領印度支那	二〇,三五五	三三,一七九
露領亞細亞	二一,九一六	二四,五六二	比律賓諸島	一六,三四二	一七八四一
暹羅	一九,〇六七	三三,二六〇	英吉利	一六四,八四〇	一五三,二七一
佛蘭西	二四,〇〇六	二七,三〇九	獨逸	一三三,五三三	一三一,三九〇
白耳義	一四,四九七	一四,三三八	瑞西	一九,九四〇	一八,〇九五
瑞典	一〇,七六七	一〇,八八九	北米合衆國	六二五,五〇三	六七三,六八五
加奈院	六六,四九八	五五,六六九	埃及	二〇,三四〇	二四,六三三
濠太刺利	一三〇,四九四	一二三,八四〇	其他諸國	八八,三一八	八〇,四九一
計	二,一九六,三二四	二,二七九,一五三			

第二章 東京貿易

東京貿易とは何ぞや。東京港が外國貿易港でなく又東京市が貿易をもつて立つてゐる都市でないので色々の立脚地から定義が與へられる。即ち

生産、消費から見たる東京貿易。東京商品が經路の如何を問はずとれだけ海外に輸出されるか、又外國商品がどれだけ東京で消費されるかの調査。

商業から見たる東京貿易。東京の地域内に營業所を有する者が内地商品たると外國商品たるを問はずとれだけ輸出し又は輸入するかの調査。

東京港の貿易。東京港から輸出商品がどれだけ出、東京港に輸入商品がどれだけ入つてくるかの調査。

本稿は「生産から観たる東京輸出貿易」を主として調査するものである。即ち「大東京の地域内に於て全部又は一部生産又は加工せられたる商品」の昭和三年の輸出状況である。

第一篇 生産から輸出へ

附「輸入から消費へ」

第一章 生産消費状況

昭和三年の東京集散貨物数量は出貨三百六十六万五千七百四十三噸、入貨一千五百九十二万七千四百四十噸で差引入超一千二百二十六万一千六百九十七噸で入貨は出貨の四倍以上にのぼつこゝる。これを以て觀るも東京が一大消費地であることが明かである。

	昭和三年	昭和二年
出貨	三、六六五、七四三 噸	三、七〇二、三三三 噸
入貨	一五、九二七、四四〇	一四、一一七、四〇一
計	一九、五九三、一八三	一七、八一九、七三四

東京の實際の消費高は入貨一千五百九十三万噸(その内幾分は再出貨になるが)に東京に於て生産され而して消費されたるものを合したものである。

然らば東京の生産状態は如何。東京の生産品は殆ど工業生産品であるから工業から観たる生産状況を

一瞥しよう。

昭和二年工場統計表によれば東京に於ける工場數(常時五人以上の職工を使用する工場)は六千四百三十八、職工數は十七万六千七百六十五人、生産額九億三千七百八十九万三千六百五十五圓である。生産額を地方別に觀るに大阪十一億六千七百六十七万一千二百二十圓(一割七分)を首位とし東京は之に亞いで本邦の一割三分を生産するを以て本邦の一大工業都市である。事業別に東京及本邦の工場數、職工數、生産額を示せば次の如し。

昭和二年本邦及東京の工業統計

	東 京			本 邦		
	工場數	職工數	生産額	工場數	職工數	生産額
紡織工業	一一五	四六,三三三	一四〇,五六三,四二五	一八,九三四	九九,一三三	二,六七六,六八四,四一七
金屬工業	九六七	一七,四六八	九二,一〇五,七〇五	三,五〇〇	一〇九,七二七	四六七,一三三,一六三
機械器具工業	一,三二二	四〇,八二五	一七四,六七四,七八	四,五〇四	二四五,九六三	五八二,九六〇,六九九
窯業	八四	五,二二五	一一,八九〇,一五四	二,六四四	六五,三三四	一九三,〇一一,三〇〇
化學工業	五八二	一九,六〇三	一九四,二一四,三七〇	二,七〇一	一一七,三三三	八四八,三九〇,七四九
製材木製品工業	三五八	五,四九〇	二二,二〇六,四五〇	三,九三五	五四,四五九	一八七,二五九,八八四
印刷製本業	七五六	二〇,三九〇	七五,二七八,八八六	二,三三九	五三,一二二	一九三,七〇六,三三三
食料品工業	五〇三	八,三三七	一一九,七二五,九六〇	一〇,三四四	一六五,七七六	一,一三三,五六一,七一八
瓦斯電氣業	二七	一,三九八	一九,七〇六,一五〇	四二四	八,三四四	一四九,二七六,三六〇
其他ノ工業	五七九	二,八九七	五一,〇五六,七九一	四,三六五	八七,五四一	二二四,〇四五,三三五
工賃、加工料、修繕料			三四,六三二,〇三六			三〇三,九三二,七三〇
合 計	六,四三八	一七六,七六五	九三七八九,六五五	五三,六八〇	一,八九八,八七三	六,九四七,九四八,四八七
	(男 一二,四三三)			(男 九三,三〇一)		
	(女 五,四三三)			(女 九七,五六七)		

以上は職工五人を以上使用する工場の工場數、職工數及生産額であるが職工五人以下を使用する工場及家内工業者等を加算する時は東京の工業生産額は十數億萬圓に達するは想像に難くない。

工業の都市的集團化は色々の便宜を伴ふが、それと同時に反面に重大な不便も亦發生する。そして、此の集團が餘りに膨脹し過ぎると、此不便の壓迫に堪へられないで大工業は都市を退去し、再び分散する傾向がある。此程度に膨脹した都市はそれ故單なる工業都市と言ふよりは一の綜合的な「大都市」と呼ばるべきであり、その内的構成も工業よりは寧ろ商業的、金融的、交通的、乃至一般消費市場的意義が中心である。かゝる「大都市」に隨伴する工業的不便の主なるものは、土地の制限、地價

の昂騰、生活費の昂騰に伴ふ労働條件の向上、又都市労働者に發達せる團結的勢力の障害、諸税、その他社會的負担の増加等である。然も概言すれば從來都市に特有だつた幾多の利便も物質文化の進歩と共に郊外又は田舎へさい次第に普及するに反して大都市の不便は愈々増大するを免れない。此事は特に重工業及び一般大工業に就て然るが故に彼等は次第に大都市を退去するのである。併し

- (1) 小規模で近接消費者を相手とする工業
- (2) 精巧加工及び嗜好流行品の如き都市的需要を相手とする工業
- (3) 都市の婦人的労働を使用せんとする工業

等に就ては事情全く異つてゐて大都市は好箇の工業地たるを失はぬのである。否大都市を俟て始めて成立し得るのである。故に大都市は次第に工業市たる性質を失ふと共に、殘存せる工業の種類も次第に變化し、重工業的大工業から中小工業へ移つて行くのである。

之を東京に就てみれば大工場は始ど東京市の郊外である荏原、豊多摩、北豊島、南足立、南葛飾の諸郡にあつて市内には中小工場及び家内工業者が大部分である。

東京市商工課の調査による昭和三年に於ける工場の地理的分布状態を示せば左の如し。

市 内	工場數	職工數	市 内	工場數	職工數
麴町區	八五	五八九	神田區	四二二	五、〇一六
日本橋區	一九	一、二六七	京橋區	二六二	八、七七八
芝 區	五七五	一九、八七七	麻布區	一三四	二、〇七六
赤坂區	二五	四〇七	四谷區	二六	四四七
牛込區	一三六	三、八〇九	小石川區	一八六	八、一六九
本郷區	一八六	二、〇六九	下谷區	二八	二、二五九
淺草區	二六二	五、四八〇	本所區	八七	一六、五〇九
深川區	三三二	八、五五三	計	三、八二四	九〇、六一四
郡 部					
荏原郡	七七四	二四、一九九	豊多摩郡	三八一	一一、七二四
北豊島郡	一、二六三	三五、五四一	南足立郡	九七	四、八二三
南葛飾郡	一、二二四	四一、六九九	計	三、六三九	一一七、九六五
合 計	七、四五三	二〇八、五七九			

職工數別工場數 (昭和二年工場統計)

職工數別	東京	大阪	本邦	職工數別	東京	大阪	本邦
五—九人	三、四一八	三、七〇四	二、七八三六	一〇—一四人	九一七	一、〇八八	七、七三七

一五—二九人	一一〇	一、三三三	八、九六九	三〇—四九人	四五九	五八六	三、七六七
五〇—九九人	二九二	三六九	二、六三八	一〇〇—四九九人	二〇三	二五九	二、二〇五
五〇〇—九九九人	二四	三三	三、一〇	一、〇〇人—	一六	四〇	三三八
合計	六四八	七、二九一	五三、六八〇				

大東京の地域内に於て中小工業者は工業者總數の九十五割以上に及ぶ。而して東京商品の輸出額をみるに大資本的工場組織のみによつて生産されてゐる工業の輸出額は三千三百万圓、中小工業者のそれは三千百万圓である。中小工業の盛衰は大工業の盛衰と共に國家的問題であり且、地方的問題であるが構成員の生活の管理を最高使命とする自治體にとつて前者の興廢は更に一段の重要性を有するものと見るべきである。従て地方自治體は中小工業者の嚮導獎勵には一層の努力を拂はねばならない。

東京商品輸出額

大工業生産品	三三三、一四五、〇〇〇圓
中小工業生産品	三〇、八二五、〇〇〇圓
其他不明生産品	一一、八〇〇、〇〇〇圓
合計	七五、七七〇、〇〇〇圓

中小工業の生産品はかく輸出貿易上重要な地位を占めてゐる。故に中小工業の基礎を確實にして其發展を圖することは市民全體を培ふことになる。所謂産業合理化の問題も重点を中小工業に置くべきである。尙中小工業は獨り産業貿易の見地のみには止らないで所謂中間階級として社會政策的の見地からも重要視すべきである。

中小工業の存立上の缺陷は

- (1) 生産組織が小なるため個人經營の同業者が多數出現し而も相互の間に統制も規律もなく無謀の競争を試み其の結果價格の騰落の甚だしいものがある。加之技術上の訓練と統制も缺いで居るから粗製濫造も當然起らざるを得なくなる。
- (2) 資力信用が薄弱である上に金融組織が不完全であるから常に問屋若くは仲介業者に引づられて行く。
- (3) 其他一般商品取引の仕組が不備なため常に事業の安定を缺いてゐる

等である。之等の缺陷を除去するためには同業者間の「統制」を圖ることが急務である。

第一章 商品取引狀況

第一節 輸出取引経路

東京商品の輸取出取引経路と云つても地方的特色の濃厚なものではなくて大體、本邦の輸取出取引経路を述

ぶれば要を得る。輸出するものは左の三者である

- (1) 製造者 製造者中資力豊で規模大なるものは直輸出する。
- (2) 問屋 中小工業者は自己の生産品を直輸出すること殆どなく大分部は問屋の手を経る。問屋は直接海外輸入業者に輸出するか又は輸出商に賣渡す。
- (3) 輸出商 東京横濱神戸大阪等の輸出商は製造者又は問屋から東京商品を購入して海外の輸入業者に輸出する。

第二節 貿易従業者及貿易関係の組合

- (一) 東京商品を輸出する貿易業者は大部分東京に居住するも横濱神戸諸港の貿易商も東京商品を取扱ふ。東京の主なる邦人貿易業者は約百六十名で外人貿易業者は百九十名である。その外に貿易業者でなくて製造者、問屋等で輸出となすもの又は輸入をなすものが約四百十名程ある。
- (二) 重要輸出品工業組合法によつて設立されてゐる組合左の如し。

重要輸出品工業組合

- 東京靴下工業組合 小石川區久堅町八五
- 東京鉛筆工業組合 日本橋區鐵砲町一
- 日本輸出鉛筆工業組合聯合會 日本橋區鐵砲町一

- 東京刷子工業組合 本所區中ノ郷原庭町三三
- 東京輸出莫大小工業組合 日本橋區藥研堀町一九
- 東京輸出セルロイド玩具工業組合 淺草區瓦町二六
- 東京珪瑯鐵器工業組合 神田區東紺屋町四九
- 東京自轉車工業組合 府下岩淵町字稻付
- 東京府荏原麻眞田工業組合 府下大森町三、二六一

輸出組合法によつて設立されたる組合左の如し。

輸 出 組 合

- 對露輸出組合 麴町區内幸町一ノ三
- 對佛瑞白輸出組合 京橋區出雲町一

第三章 運輸 狀況

第一節 東 京 港

昭和三年東京港に入港した船舶は船數九千十六隻、總噸數三百八十一万二千四百三十三噸で、出港したる船舶は、船數八千九百四隻、總噸數三百七十五万六千六百六十噸である。

詳細を示せば次表の如し。

東京港入港船舶表

汽船	船數 三、〇三六	總噸數 三、六四九、七六七	登簿噸數 二、二八九、八六〇
機關ヲ有スル帆船	船數 五、八九四	總噸數 一、五三、〇〇六	登簿噸數 八三、七五四
機關ヲ有セサル帆船	船數 五六	總噸數 九、六六〇	登簿噸數 不明
合計	船數 九、〇二六	總噸數 三、八二二、四三三	登簿噸數 *二、二七三、六一四

*機關ヲ有セサル帆船ノ登簿噸數ヲ含マズ

東京港出港船舶表

汽船	船數 三、〇〇四	總噸數 三、六〇三、三四九	登簿噸數 二、二六三、〇一〇
機關ヲ有スル帆船	船數 五、八一七	總噸數 一、四五、三三一	登簿噸數 七、九四九、二
機關ヲ有セサル帆船	船數 八三	總噸數 八、〇八〇	登簿噸數 不明
合計	船數 八、九〇四	總噸數 三、七五六、六六〇	登簿噸數 *三、二四一、五〇三

*機關ヲ有セサル帆船ノ登簿噸數ヲ含マズ

昭和三年東京港内國貿易の状況を觀るに出貨四十一萬九千八百九十六噸、入貨四百九萬二千二百七十六噸で合計四百五十一萬二千七百七十二噸である。

之を前年と比較すれば次の如し。

	昭和三年	昭和二年
出貨	四一九、八九六噸	四一〇、七〇六噸
入貨	四、〇九二、二七六	三、一三六、九八四
合計	四、五一二、二七二	三、五四七、六九〇

昭和三年東京港外國貿易を税關の統計によつてみれば、輸出價額一千六百三十五萬一千二百圓、輸入價額四千四百七萬六千七百七十圓、合計六千四百四十二萬七千九百七十圓で輸入超過二千七百七十二萬五千五百七十圓である。

東京港輸出入額

輸出品價額	一六、三五一、二〇〇圓
輸入品價額	四四、〇七六、七七〇圓
合計	六〇、四二七、九七〇圓
輸入超過	二七、七二五、五七〇圓

東京港輸出重要品

品名	單位	數量	價額	輸出額に對するパーセント
蟹罐詰	斤	四、九五六	三、二一〇	
薄荷腦	擔	一	二、一六三	
富士絹類	方碼	五〇	三八	
其他絹織物	方碼	五〇	三八	
絹製手巾	打	四、二二六	一一、九三一	
百合根	千個	五〇一	四〇、八九七	
電燈球	打	三六〇、九六八	二二七、九九四	一%
其他			一三、八三〇、〇八七	八五%
計				
魚油及鯨油	擔	一、五六五	二五、四〇〇	
綿織絲	斤	二七六、二二一	五四、一三五	三%
縮緬	方碼	二、二二一	三、六九八	
綿織物	方碼	二、三二一、二八九	六〇七、五〇三	四%
絶縁電線	擔	一、八〇九	一三五、九四〇	
木材			九七四	
玩具			九三、六一九	六%
計			一六、三五一、二〇〇	

東京港輸入重要品

品名	單位	數量	價額	輸入額に對するパーセント
米及粃	擔	三、九六〇	三六、〇九九	
砂糖	同	一、四九〇、七四九	一六、五〇六、八三八	三七%
牛脂	同	二、三五五	一一〇、三五一	
生ゴム	擔	二〇、六五九	一、三三四、三八七	三%
毛織絲	斤	一、〇八一	二、六六五	
羊毛	擔	六二	一三、三八一	
鐵(條、管、板、線、ワイヤ、ロッド、及筒管類)	擔	三、四六三	三三、一八一	
自動車及同部分品		一、五三六、七三三	三%	
印刷料紙		二九二	五、六九五	
計			四四、〇七六、七七〇	
硫酸アモニア	擔	二六二	三、二五六	
麻類	擔	五〇四	一四、〇二五	
毛織物(綿入共)	方碼	二六、四九五	七、四一九	
鉛(塊及錠)	擔	四、三三四	六五、五三五	
木材		三五八、七三五		
其他			一六、七九六、八八五	三八%

第二節 横濱港

横濱港は東京の門戸で、東京商品の七、八割は横濱港から輸出し又、東京で消費される輸入品の七八割は横濱港に輸入されるを以て横濱港と東京は不可分離の關係にある。

昭和三年入港した外國貿易船は二千六百三隻で總噸數は一千六百六十三萬一千九百九十三噸である。その内日本船一千五百八十五隻總噸數八百四十四萬七千九百九十五噸、外國船一千八十八隻總噸數八百十九萬一千九百九十八噸である。

昭和三年 横濱港外國貿易船入港表

船種	噸數					計	噸數
	以下千噸	以上千噸	以上三千噸	以上四千噸	以上六千噸		
日本船	九	三三一	三三一	六三九	四四四	六一	一、五八五
外國船	一五	二四	二四	三六四	三九〇	二三五	一、〇一八
合計	九	二四六	二四五	一、〇〇三	八三四	二八六	二、六〇三

横濱港に出入する外國貿易船の所屬會社は三十六會社であつて航路は五十九ある。航路別にみれば次の如し。

歐洲航路	十六會社	二〇航路	北米航路	十六會社	十九航路
南米航路	三會社	四航路	濠洲航路	四會社	四航路
印度航路	六會社	八航路	支那航路	四會社	四航路
歐洲航路	歐洲航路				

國籍	船會社名	航路	輸出貨物	輸入貨物
日	日本郵船會社	横濱—倫敦	蟹罐詰、ボンジー、生絲	鐵鋼、條竿、毛織物、硫酸アンモニヤ
		横濱—リバプール	同	同

日	大阪商船會社	横濱—漢堡	薄荷油、魚油、鯨油	硫酸アンモニヤ、鐵、條竿
英	Peninsular & Oriental Steam Navigation Co.	倫敦—横濱	蟹罐詰、ボンジー、生絲	鐵鋼、條竿、毛織物、硫酸アンモニヤ
英	Glen & Shire Line	ミドルズブロー	同	同
英	Ben Line	浦鹽(横濱經由)	同	同
英	Ellerman & Bucknall S.S. Co.	倫敦—横濱	薄荷油、魚油、鯨油	硫酸アンモニヤ、鐵、條竿
英	Blue Funnel Line	漢堡—横濱	同	同
獨	Hamburg-America Line	リバーブル—横濱	同	同
獨	Norddeutscher Lloyd	漢堡—横濱	同	同
獨	Rickmers Line	ブレメン—横濱	同	同
佛	Messageries Maritimes	漢堡—浦鹽(横濱經由)	同	同
		馬耳塞—横濱	生絲、羽二重	葡萄酒
		安土府—浦鹽(横濱經由)	同	同

伊	Lloyd Triestino	トリエストー横濱	屑生絲	同
瑞	Swedish East Asiatic Co.	ゴテンブルグー浦塩 (横濱經由)	同	同
丁	East Asiatic Co. of Copenhagen	コペンハーゲンー浦塩 (横濱經由)	同	同
諾	Norwegian Africa & Australian Line	オストローー横濱	同	同
和	Holland East Asia Line	アムステルダムー浦塩 (横濱經由)	同	同
北米航路				
日	日本郵船會社	香港ー沙市	蟹罐詰、羽二重、生絲、玩具	材木、小麥粉、鉛、鮭
日	大阪商船會社	香港ー桑港	同	米、果物、干葡萄、鉛
日	三井物産會社	上海ー沙市	同	同
日	三菱商事會社	神戸ー沙市	同	同
英	Blue Funnel Line	香港ー沙市	同	同
英	Canadian Pacific O.S.Co.	晚香坡ー神戸	同	同
英	Tacoma Oriental S.S.Co.	タコマー北支那	同	同
		タコマーヒリツピン	同	同

米	States S.S.Co.	ボートランドー北支那	同	同
米	Oceanic & Oriental Navigation Co.	ボートランドーヒリツピン	同	同
米	American Mail Line (Admiral Oriental Line)	ロス、桑港ー北支那	同	同
米	Dollar Line	ロス、桑港ーヒリツピン	同	同
日	日本郵船會社	沙市ーヒリツピン	同	同
日	大阪商船會社	沙市ー大連	同	同
日	國際汽船會社	桑港ーマニラー沙市	同	同
日	日本郵船會社	神戸ー紐育(バナマ經由)	生絲、玩具、蟹罐詰	綿、鐵鋼
日	國際汽船會社	香港ー紐育	同	同
日	國際汽船會社	紐育ー神戸	同	同
英	Bank Line	ニウオルクーンスー上海	同	同
米	Isthmian Line	紐育ー大連	同	同
米	American Pioneer Line	ニウオルクーンスー神戸	同	同
米	American Pioneer Line	(横濱、神戸、上海經由)	同	同
諾	Fern Line	ニウオルクーンスーマニラ	同	同
諾	Fern Line	大西洋岸ーヒリツピン	同	同
南米航路				
日	日本郵船會社	香港ーバルバライン	綿製品、油	硝石

日 大阪商船會社 神戸—ブエノスアイレス 絹製品 肉罐詰
 日 日本郵船會社 神戸—ダーバン 絹、綿製品
 日 日本郵船會社 横濱—ブエノスアイレス 絹製品 肉罐詰

濠洲航路

日 日本郵船會社 横濱—メルボルン 絹、綿製品 羊毛
 日 大阪商船會社 横濱—メルボルン 同 同
 日 Japan Australian Line 横濱—メルボルン 同 同
 (山下、川崎、國際共營)
 英 Eastern & Australian S.N.Co. メルボルン—横濱 同 同

印度航路

日 日本郵船會社 横濱—甲谷陀 絹、綿製品 銑鐵、豆、亞麻仁
 日 大阪商船會社 横濱—甲谷陀 同 同
 英 British India S.N.Co. 甲谷陀—横濱 同 同
 香港 Indo-China S.N.Co. 甲谷陀—神戸 同 同

日 日本郵船會社 神戸—孟買 絹、綿製品 綿
 日 大阪商船會社 神戸—孟買 同 同
 英 Peninsular & Oriental S.N.Co. 孟買—横濱 同 同
 伊 Lloyd Triestino トリエスト(カラチ經由)—横濱 同 同

支那航路

日 日本郵船會社 横濱—上海 小麥粉、精糖、インキ、芋麻、豆、麩
 日 山下汽船會社 横濱—上海 同 同
 日 近海郵船會社 横濱—牛莊 小麥粉、精糖 同
 日 大阪商船會社 横濱—天津 同 同

昭和三年 横濱港内國貨物汽船入港表

千噸以下	千噸以上	三千噸以上	四千噸以上	六千噸以上	計	噸數
八五	一四七	四〇〇	一五五	二	二、九二六	五四七、五五三

横濱港内國貿易貨物數量は次の如し。

出貨	二二四、九三九噸
入貨	三、五二一、七三二噸
計	三、七二六、六七一噸

昭和三年輸出入貨物數量價額は次表の如し。

	數量	價額
輸出	四二〇、九一六噸	七四二、二九六、〇〇〇圓
輸入	五、五五九、六六五噸	六一四、三四三、〇〇〇圓
輸出入合計	五、九八〇、九八一噸	一、三五六、六三九、〇〇〇圓
輸出超過		一二七、九五三、〇〇〇圓

附記 東京商品の七、八割は横濱港（東京港も含む）から輸出するも他は主として陸路神戸に行き神戸から東洋諸國及歐洲諸國に輸出する。從來横濱港から出帆する（亞米利加航路は別とし）歐洲、濠洲、支那、南洋、印度行船舶は神戸港出帆船に比較して其船數極めて僅少なるため、東京輸出商品は商機の如何によつては神戸まで陸送して積込まねばならぬ。無用なる運送費の負擔が輸出業者に重大なる影響を與へてゐることは東洋各國への輸出貿易上大いに考慮すべき點である。

第四章 貿易狀況

第一節 輸出貿易

昭和三年東京商品の輸出總額は七千五百七十七萬圓である。これを本邦輸出額十九億七千九十五萬五千圓に比すると二十六分の一に當る。換言すれば本邦輸出額の四%である。次に重なる品目を示せば次の如し。

大工業生産品、綿織物、精糖、紙類、電球、小麥粉、機械、綿織絲、毛織物
 中小工業生産品、玩具、履物、絹手巾、アンチモニー製品、帽子、理化學器、ブロンズ工藝品、鉛筆、硝子、象牙、醫療器、賣藥、絹製肩掛、莫大小製品、肌衣類、絹製品、造花、刷子

昭和三年 東京商品輸出額（○は大工業生産品）

綿織物	○ 七、五九四、〇〇〇	玩具	六、八三六、〇〇〇	精糖	○ 六、六五、〇〇〇
紙類	○ 四、六六六、〇〇〇	電球	○ 三、七九、〇〇〇	小麥粉	○ 三、三〇、〇〇〇
履物	二、五八、〇〇〇	絹手巾	二、三〇、〇〇〇	藥材、化學及製藥	二、一三、〇〇〇
機械	○ 一、九五九、〇〇〇	安質品	一、四〇、〇〇〇	綿織絲	○ 一、三三、〇〇〇
絶縁電線	一、二二八、〇〇〇	書籍及雜誌	一、〇七、〇〇〇	車輛及同部品	一、〇一、〇〇〇

調製薰香類	九〇,〇〇〇	鐵製品	八〇三,〇〇〇	帽子	六九三,〇〇〇
イソキ	六三三,〇〇〇	掛時計及 置時計	五八四,〇〇〇	理化學器	五五二,〇〇〇
洋服	五九〇,〇〇〇	工藝品	五二五,〇〇〇	罐及壘詰	五二五,〇〇〇
鉛筆	五〇〇,〇〇〇	木製品	四四〇,〇〇〇	硝子及 同製品	四〇四,〇〇〇
象牙製品	四〇〇,〇〇〇	醫療器	三八五,〇〇〇	木材	三八五,〇〇〇
賣藥	三六八,〇〇〇	毛織物	三六六,〇〇〇	絹製肩掛	三五六,〇〇〇
麥酒	三五六,〇〇〇	麻真田	三五〇,〇〇〇	行季、旅 櫃、提囊	三三九,〇〇〇
莫大小製品	三三七,〇〇〇	肌衣類	三三三,〇〇〇	蒲團	三三〇,〇〇〇
晒粉	三三八,〇〇〇	セメント	三三三,〇〇〇	糖菓類	三三五,〇〇〇
電話機	二六〇,〇〇〇	皮毛、角牙、 及同製品	二三九,〇〇〇	爆發藥	二〇〇,〇〇〇
紙箱及紙筒	一八二,〇〇〇	絹製品	一五〇,〇〇〇	硫化曹達	一五〇,〇〇〇
鐵器	一五〇,〇〇〇	農具及 工匠具	一四七,〇〇〇	石鹼	一四三,〇〇〇
陶磁器	一四一,〇〇〇	造花	一三五,〇〇〇	ニッケル 鍍品	一三〇,〇〇〇
革類	一一五,〇〇〇	硫酸	一〇〇,〇〇〇	ペイント	一〇〇,〇〇〇
染料、顔料、 塗料及填充料	一〇〇,〇〇〇	帳簿及手帳	一〇〇,〇〇〇	銅	九七,〇〇〇

身邊用品	九五,〇〇〇	トリウム	八〇,〇〇〇	毛製及毛綿製 ブランケット	八〇,〇〇〇
樂器	七三,〇〇〇	青銅製品	七〇,〇〇〇	ワイシャツ	六六,〇〇〇
靴紐	六〇,〇〇〇	刷子	五四,〇〇〇	鉛丹	五〇,〇〇〇
衛生材料	五〇,〇〇〇	沃度加里	四七,〇〇〇	銅製品	四五,〇〇〇
肥料	四三,〇〇〇	硝酸	四〇,〇〇〇	財布及 褁口類	四〇,〇〇〇
麻囊	三四,〇〇〇	眞鍮製品	二六,〇〇〇	アルミニウ ム製品	二五,〇〇〇
綿手巾	二二,〇〇〇	紙製 ナ	二二,〇〇〇	封筒	一五,〇〇〇
練乳	一一,〇〇〇	打紐、 田紐類	八,〇〇〇	沃度	五,〇〇〇
雜品	二,五〇〇,〇〇〇	小包郵便	九,三〇〇,〇〇〇		
總計	七五,七七〇,〇〇〇				

尙これ以外に外遊客等の土産物として購入して行く商品も相當多額に達する。

第二節 輸入貿易

東京が輸入商品をどれだけ消化するかは調査困難であるが、有數の消化地で殊に輸入全製品の消費は恐らく本邦第一であらふ。東京の消費する輸入品の大部分は横濱港に輸入されるとみて大過ない。故に横濱税關の統計によつて東京輸入貿易の概略を察知することが出来る。横濱港の輸入額六億一千四

百三十四萬三千圓の凡そ六割は東京に仕向けらる。横濱輸入商品を分類すると原料品一億九千四百餘萬圓、原料用製品九千二百萬圓、食料品九千八百萬圓、全製品二億三千萬圓である。これを本邦輸入商品分類と對照すれば次の如し。

輸入商品	千圓	
	本邦	横濱港
原料品	一、〇七一、一九五	一九四、三三六
原料用製品	三二六、〇二九	九一、七七八
食料品	二八五、〇〇七	九八、〇〇九
全製品	五、一四、〇八三	二、三〇、二二〇
合計	二、一九六、三二四	六、一四、三四三

横濱港輸入商品の主なるものは次の如し。

横濱港主要輸入商品

- 原料品 綿、木材、羊毛、原油及重油、鉛、生ゴム、穀、燐礦石、牛脂、皮類
- 原料用製品 鐵、硫酸アムモニウム(粗製)、植物纖維、製紙用パルプ、毛織絲、松脂、苛性曹達、羊毛トップ、パラフィン・ワックス、曹達灰

- 食料品 小麥、砂糖、豆類、米及粳、酒類、食塩、穀粉及澱粉類、蔬菜果實及核子、練乳、鳥卵、
- 全製品 機械、肥料、自動車、石油、毛織物、紙類、煙草、電話機、自轉車、書籍及雜誌

第三篇 東京重要輸出商品概況

本篇に於ては東京生産の各商品に就き生産状況及輸出状況を敘述するのであるが注意すべき事項左の如し。

- (一) 本邦生産額及東京生産額は昭和二年工場統計表による。故にその生産額には職工五人以下の工場及び家内工業生産額を包含しないのである。商品中に輸出額が生産額に超過する様な一見矛盾した箇所もあるがそれは職工五人以下の工場及家内工業の生産額が工場生産額に比し相當額に達する証左である。
- (二) 生産組織中の工場数は昭和三年工場要覽(東京市商工課發行)による。
- (三) 公表されてゐる本邦輸出額と實質的本邦輸出額との間には相當の開きが見出されるが本稿に於ては本邦輸出額は公表されてゐる輸出額を又東京輸出額は實際の輸出額を掲ぐ。故に價額によつて兩者の比を求むるには無理があるが次の機會に是正したい。
- (四) 仕向地は近年の傾向を百分率によつて大體表示するに止むる。

第一章 穀物穀粉澱粉及種子

◎ 小麥粉



一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額 一二〇、九九三、〇一九圓
 東京生産額 八、二七三、八五四圓

2. 生産組織

工場數	九	三	一	計
職工數	六六	三八	四三	八九
				二二六

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額 二四、七一八、〇〇〇圓
 東京輸出額 三、三一〇、〇〇〇圓

斯業は神奈川縣最も盛んで輸出額も又最大である。

東京に於ては斯工業者可成あるが中小の斯業者は輸出貿易に關係なく専ら一、二の大會社の商品のみ輸出さる。

本品の輸出額は前年に比して急増してゐる。右は専ら輸出粉の原料である外國産小麦の未曾有の増産安値の爲製粉業者の採算容易となり、一方各製粉會社の内容充實新式集約製粉機の使用、技術の進歩等目覺しいものがあつて外國品に比して豪も遜色ない製品を得るに至り外國市場に全力的に輸出邁進したるを主因とする。

2. 仕向地(百分率)

支那 七五 關東州 二一 蘭領印度 二 英領海峽殖民地 一 其他 一

本品の仕向地は支那關東州特に北支を最とするため本年の排日貨の影響比較的少く、非常な盛況を見たが排日貨の影響が全然なかつたら更に輸出の増加を見たらふ。

かく對支輸出旺盛になつたのは前揚の理由による外特に本邦が同國に對し製粉地として有利な位置を占むる結果で即ち世界各國産原料の配合自由なる事、産地から日本迄は原料運賃なる事、需要の波動急なる支那市場に對し注文から現品着の期間短い事、同地市場相場が専ら東京相場を標準にする事等によつて本邦製粉の需要を増加し、品質の好適なる事亦マークに對する聲價を増大してゐる。從來輸出粉の盛時は大正六年前後の大戰當時と大正十五年のダンピングの盛であつた當時であるが之等に比し本年度輸出増加が右の如く堅實なる需要増加による事は注目し値ひする。

第二章 飲食物及煙草

◎ 精 糖

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額 一五四、八二八、六七〇圓

東京生産額 三六、八四〇、八九五圓

2. 生産組織

斯業は大資本生産組織で、東京に於ける會社は大日本製糖株式會社、鹽水港製糖株式會社、大正製糖株式會社である。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額 三八、四一四、〇〇〇圓

東京輸出額 六、六五八、〇〇〇圓

本年の東京輸出は前年に比して増加を示した。

2. 仕向地(百分率)

支那 八二 關東州 一〇 露亞 五 其他 三

3. 其他

昭和三年精糖本邦對支輸出は三百一十一萬七千擔、二千四百六十一萬圓で本邦精糖輸出總額の八割三分餘を占め前年に比し八十八萬八千擔(四割)七百萬圓(二割八分)の増大である。支那は從來本邦精糖の主要市場で一九二七年の統計によれば車白糖の總輸入三百三十二萬八千擔、二千六百六十七萬兩の内邦糖は二百四十五萬擔、一千九百二十二萬兩で七割三分強を占め香港糖は僅かに七十二萬六千擔六百三十一萬兩で邦糖の勢力殆ど他の追従を許さなかつた。而して同年後半期からは在上海公賣所の關係によつて其の活動を拘束せられたが本年初頭に解散せられた爲初めて自由市場開け商況頓に活況を呈し邦糖は異常の發展を見た。而して其の直接原因としては動亂北上したること、前年豊作の結果購買力良好となりたること、五月排日見越の輸入、世界的增收の爲内地製會社の安値賣進み等を數ふることが出来る。從て若し此の形勢で引續き推移すれば其結果輸出益盛大を期せられが偶々五月に至り濟南事件勃發を見るや忽ち排日貨を招致した結果取引上障害を來し此間に乘し爪哇糖の活躍は頗る旺盛で其の年初に當つては前年度の在荷壓迫邦糖の活躍により逼塞の觀があつたが急激な發展を遂げ又香港糖は怡和工場の閉鎖太古工場の經營難等により凋落の氣運濃厚であつて斯の如き結果年初に

當つて精糖本年の輸出多大なるを期待せられた對支輸出は比較的僅少の増加に止まり其他關東州露領亞細亞にあつては相當の輸出増大あり結局前記の如き結果を得たるものである。

◎ 麥 酒

一、生産狀況

1. 生産額

本邦生産額 八六、〇七四、六四二圓

東京生産額 二〇、三九九、七九二圓

2. 生産組織

本邦麥酒醸造工業の生産組織は所謂大工場組織で其會社數極めて少い。製造會社名及銘柄を挙げれば左の如し。

社名	銘柄	工場
大日本麥酒株式會社	札幌、朝日、惠比壽、青島、ミュンヘン	目黒、吾妻橋、吹田、札幌、博多、名古屋、青島
麒麟麥酒株式會社	麒麟	横濱、神崎、仙臺
日本麥酒鑛泉株式會社	カブト、ユニオン	愛知縣半田
櫻麥酒株式會社	サクラ	福岡縣大里

壽 屋

カスケード

鶴見

設立中會社

ライオン麥酒株式會社

東洋麥酒株式會社

本邦醸造能力は百五十萬石に達するも世界に於ける地位は僅に十八位に止るのみ。

東京に於ける麥酒工場は大日本麥酒株式會社所屬の目黒及吾妻橋兩工場のみて昭和二年生産額は二千萬圓餘である。

一、輸出狀況

1. 輸出額

本邦輸出額 四、四二二、〇〇〇圓

東京輸出額 三五六、〇〇〇圓

本品の輸出は大正八年を最高とし爾來甚だ不振の狀況を脱しなかつたが昭和元年を一劃期として漸増の趨勢を辿るに至つた。

2. 仕向地(百分率)

蘭領印度 七〇 支那 關東州 英領印度 三〇

本品の主要販路は支那香港に於て減少したが、印度南洋方面に於て増加したのである。

3. 其他

斯工業の難點は原料としてのホップを産しない爲良品を得難く品質に比して生産費の高くつく點にある。

◎ 煉乳

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額

八、二一四、九五六圓

東京生産額

一四八、一四五圓

2. 生産組織

本品は牛乳を久しく貯藏し、又遠距離の地に送る目的を以て水分を蒸發し粘稠體に製したるもので、蔗糖を加へ甘味を附したるものと然らざるものとある。而して本品は工場工業的生産品である。

一、輸出状況

1. 輸出額

東京輸出額

一一、〇〇〇圓

煉乳の輸出は再輸出又は微々たる試賣の程度で東京輸出商品の地位に在るとは言ひ得ない。

2. 仕向地 (百分率)

佛領印度 五〇

支那 一八

關東州 一八

海峽殖民地 三

◎ 罐及罐詰

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額

一五、〇〇四、八五五圓

東京生産額

一、五七三、八三二圓

輸出關係の商品の生産數量を示せば次の如し。

福神漬

一斤罐四打入

一三〇、〇〇〇函

海苔佃煮

同

五〇、〇〇〇函

雜 (鶏、田麩、果實、ジャム、其他)

二〇、〇〇〇函

2. 生産組織

東京罐及罐詰工業の工場及職工數

工場數	五二〇人	二一三〇人	三一五〇人	計
職工數	一三	四	二	一九
	八〇	七六	六五	二二二一

輸出關係商品は大體に於て工場工業的生産であるが海苔佃煮には家内工業的生産がある。

一、輸出狀況

1. 輸出額

本邦輸出額	一三三、〇三一、〇〇〇圓
東京輸出額	五一五、〇〇〇圓

昭和四年東京罐詰同業組合輸出罐詰検査數量は次の如し。(單位函)

品目	數量	順位	前年數量	比較	品目	數量	順位	前年數量	比較
北寄水煮	九、七三六	三	七、六五三	二、〇七四	帆立水煮	八七三	八	八三二	五一
蛤水煮	一一、五六三	二	二二、八〇〇	九、二三八	蜆水煮	三、三四〇	五	四、八〇三	△一、五六八
鮑水煮	一五九	二三	一一一	四八	蝶螺味付	一一八	一四	九九	一九
其他貝類	一六三	二二	一一七	三二	鮭水煮	五、八〇〇	一	三、五〇三	一、八七六
其他魚類	一、三〇六	七	一、三三五	一七一	蝦ボイルド	二九四	一〇	一八四	一一〇
海苔佃煮	一一〇	一六	一一〇	△一〇	福神漬	三、九〇七	四	五、六三〇	△一、七二三
其他漬物	五四二	九	五五一	一一	苟	一一三	一五	五〇三	△三九〇
松茸製品	五〇	一九	六一	△一一	其他野菜	二四六	一一	三三六	△七〇
鶏肉製品	九九	一七	九七	二	牛肉製品	七五	一八	一一八	△四三
雜類	一、八三〇	六	一、五三四	二九六					
合計	八八、二一九		六一、一七四	二七、〇四五					

以上の品目の内東京に於て生産されたるものは主として福神漬及海苔佃煮である。

2. 仕向地

東京罐詰同業組合の調査による昭和四年輸出罐詰仕向地別統計は次の如し(單位函)

品目 / (其一)	仕向地	支那	布哇	北米	加奈陀	英吉利	其他ノ州	アフリカ
北寄水煮	八	一	三八四七	五二七七	一	一	一	一
帆立水煮	五三	一	二六三	三九三	一	一	一	一
蛤水煮	一	一	二五〇	一一三二	一	一	一	一
蜆水煮	一	一	二五〇	一一三二	一	一	一	一
鮑水煮	一	一	二五〇	一一三二	一	一	一	一
其他貝類	一	一	二五〇	一一三二	一	一	一	一
其他魚類	一	一	二五〇	一一三二	一	一	一	一
海苔佃煮	一	一	二五〇	一一三二	一	一	一	一
其他漬物	一	一	二五〇	一一三二	一	一	一	一
松茸製品	一	一	二五〇	一一三二	一	一	一	一
鶏肉製品	一	一	二五〇	一一三二	一	一	一	一
雜類	一	一	二五〇	一一三二	一	一	一	一
合計	一	一	二五〇	一一三二	一	一	一	一

1. 生産額 (不詳)
2. 生産組織

斯業は手先を主とする彫刻で殆ど全部家内工藝である。東京は斯業に於ては獨占的地位を有する。製造業者は六十有餘名である。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額 四〇六、〇〇〇圓
東京輸出額 四〇〇、〇〇〇圓

本邦輸出額は四十萬圓餘と公表されてゐるが當市が直接輸出者に就て調査した所によると東京の輸出額は二百萬圓以上であると断定せざるを得ない。併し今は詳細の研究を後日に譲り東京の輸出額を暫定的に四十萬圓として置く。品目は卷煙草入、パイプ、菓子器、花立、紙切、腕輪、置物、胸飾等廣汎に亘つてゐる。

2. 仕向地 (百分率)

佛國 四二 英國 三六 英領印度 六 支那 五 北米 三 其他 八

第四章 油、脂、蠟及同製品

◎ 石 鹼

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額 三六、一四一、四〇四圓
化粧用 二三、三三九、一七四圓
其他 一二、八〇二、二三〇圓
東京生産額 二〇、一五四、九五九圓
化粧用 一四、一九八、六八八圓
其他 五、九五六、二七一圓

2. 生産組織

工場數 一七 職工數 一四
一七 一七 一七二 一八五 七五六 一、五一五
一一〇人 二一三〇人 三一五〇人 五一〇〇人 一〇一人 計
一七 五 三 四 一、五一五 四六
一四 一七二 一八五 七五六 一、五一五 五一

斯業は主として工場工業で職工五〇人以上を有する工場七を算へる。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額	二、〇八八、〇〇〇圓
化粧用	一、九〇八、〇〇〇圓
其他	一八〇、〇〇〇圓
東京輸出額	一四三、〇〇〇圓
化粧用	一〇四、〇〇〇圓
其他	三九、〇〇〇圓

昭和三年の輸出貿易は前年に比して頗る好況を呈した。而して主たる輸出石鹼は化粧用石鹼で七〇パーセントを占めてゐる。本邦輸出石鹼の大部分は大阪に於て生産せられるもので東京輸出石鹼は本邦輸出石鹼の百分の七に過ぎない。

2. 仕向地

關東州	四六	支那	四四	香港	蘭領印度	英領印度	海峽殖民地	暹羅	北米合衆國等
一〇									

3. 其他

本品の主たる販路は關東州、支那、香港、英領印度等である。此等の國に於ける競争國は英國を第一とし、佛國、獨逸、合衆國等之に次いでゐる。需要狀況は一般家庭には本邦品多く歐米品は主として上流家庭に限らる。輸出石鹼の價格は昭和二、三年間に於ては著しい變化なく初期に於ては原料硬油の相場幾分低下したる關係上亦價格下落したるも爾後漸次原料昂騰したるを以て本品に於ても價格回復するに至り打當り最高三圓、中等品二圓、最低一圓五、六十錢で價格の安價なるもの程輸出の量多い。支那に於ける本邦製石鹼の批判は一般に良好である。例へば香氣の良いこと顔面及皮膚の上に塗布する場合肌觸りよく石鹼に光澤あること諸外國品に比して價格の頗る低廉なる割合に品質支那產品に比して優良なる事包装紙商標の美麗で支那人の嗜好に適合して居ること又値頃の格恰なること取引方法も支那商人側の心情を理解し同情的なること等を擧げて一般に好評を博して居る。乍然一面に近時支那人の覺醒は國產の獎勵となり工業の勃興を促し石鹼工業の如きも機械使用の所謂新式で農商部に登録せられるもの逐年増加し一九二四年末に於て既に三十五會社其資本金二百九萬八千元に達し爾來増加する一方を示した。而して最近に於ては單に支那内地の需要を充たすのみでなく製品の一部は海外輸出を見るに至り専ら南洋諸島海峽殖民地に於ける華僑に供給するに至つた。本品は元來小資本で企業し得る點より現在の支那經濟程度から見れば最も格恰の企業であるが其工場經營の適否によつて其

盛衰も甚しく従て外國輸入品に與へる影響は頗る微弱で敢て顧慮するを要せない。然れ共も上海、天津、青島、武漢地方に於ける主なる石鹼工場に付て見れば將來の支那斯業は相當發展の素地あるを推知するに難くない。

第五章 藥材化學藥類及爆發藥

◎ 沃度及沃度加里

一、生産狀況

1. 生産額

本邦生産額	一、二二七、五七六圓
沃度	五二二、五七九圓
沃度加里	七一四、九九七圓
東京生産額	一九八、三四八圓
沃度	二七、八三六圓
沃度加里	一七〇、五一二圓

2. 生産組織

沃度

本品は昆布其他の海草を燒却して得たる海草灰を分解精製して得られるハロゲン屬の元素で金屬様黒褐色揮散性稜板狀の結晶をなし、特異の臭氣を有し、之を酒精に溶解したものは即ち沃度丁幾で、鎮痛劑として用らる。其他本品は化學上及工業上に於て用途極めて廣汎である。東京には粗製沃度工業は全々ない。精製沃度工業の生産狀況は大部分家内工業で職工五人以上を有する工場組織のものは一、三に過ぎない。

沃度加里

本品は不透明白色骰子狀の無水結晶で、峻烈なる鹹味がある。乾燥した空氣には風化せない。冷水及再溜アルコールに溶解し又弱い熱度に溶解し然る後冷すと凝結して眞珠様の結晶塊をなし最初の重量を減せない。然れ共充分なる高度の熱を與へると分解しなくて徐々に蒸散する。本品は醫療上に於ては梅毒、癩麻質斯等に用ひられ、又外用としては軟膏及吸入劑に供せらる。東京に於ける斯工業工場は日本化學工業株式會社と柳島製藥株式會社のみである。

一、輸出狀況

1. 輸出額

本邦輸出額

沃度 四二二、〇〇〇圓

東京輸出額 五六、〇〇〇圓

沃度 五、〇〇〇圓

沃度加里 四七、〇〇〇圓

2. 仕向地

沃度加里

支那 二九 英領印度 二八 佛國 一三 蘭領印度 九 濠洲 七 其他 十四

日本沃度株式會社調による昭和三年本邦粗製沃度、精製沃度、沃度加里的輸出状況を参考までに掲げば次の如し。

三、輸出先

數量 (封度)

輸出先

數量 (封度)

支那 五、五三七

香港 五三

フィリッピン 四〇

印度及馬來 六、九一三

蘭領印度 〇

シヤム 二九五

濠洲及ニュージラランド 八〇

英國(主として粗製沃度) 三、六七二

獨逸(主として粗製沃度) 三、八五六

佛國 四六〇

伊太利 八三八

露國(主として粗製沃度) 四三、二二八

アフフリカ 三二

其他 一八一

合計 六五、一八五

3. 其他

本邦輸出粗製沃度の競争相手は智利産品で本邦品は品質に於ては遜色ないが價格に於て非常に不利なる地位にある。

◎ 硫化曹達

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額 一、一九七、九四七圓

東京生産額 三七九、五六七圓

2. 生産組織

斯業は大資本組織で會社數は多くない。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額 五七三、〇〇〇圓
東京輸出額 一五〇、〇〇〇圓

2. 仕向地(百分率)

支那 七六 關東州 八 香港 七 英領印度 七 其他 二

◎ 晒粉

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額 四、一五一、七六九圓
東京生産額 一、八七一、〇〇六圓

2. 生産組織

本邦に於ける曹達晒粉製造業の主なるものは十會社で曹達晒粉同業組合を組織してゐる。東京に於ける工場は大日本人造肥料株式會社の王子工場、旭電化工業株式會社の上尾久工場である。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額 四五二、〇〇〇圓

東京輸出額 三二八、〇〇〇圓

2. 仕向地(百分率)

支那 八〇 香港 一〇 關東州 五 其他 五

◎ 衛生材料

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額 六、一三二、〇〇〇圓
東京生産額 一、五二〇、〇〇〇圓

2. 生産組織

衛生材料とはガーゼ、脱脂綿及繃帯で、ガーゼに薬品を浸したるものと否とがある。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額 四八二、〇〇〇圓
東京輸出額 五〇、〇〇〇圓

2. 仕向地(百分率)

支那 五〇 關東州 三五 露亞 六 香港 三 其他 六

◎ 賣 藥

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額

四四、九四三、〇五五圓

東京生産額

一〇、七九二、八〇一圓

2. 生産組織

斯業は家内工業的のもの多數であるが工場工業的のもの五十に達し大資本的組織のものも十指を屈するに足る。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額

一、三四七、〇〇〇圓

東京輸出額

三六八、〇〇〇圓

2. 仕向地 (百分率)

支那 四一 關東州 三〇 布哇 七 海峽殖民地 五 北米 五 其他 一二

3. 其他

支那、印度、南洋方面に於ける本邦品との競争者は英、米、獨諸國で、容器、外包の體裁完備し、實質に於ても醫効大なるもの多く、優越の地位を占めてある。獨逸品は醫藥的なるも、米國品は萬病向である。

第六章 染料顔料塗料及填充料

◎ 鉛 筆

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額

二、一一〇、九九八圓

東京生産額

一、六〇〇、二三〇圓

東京輸出鉛筆工業組合調査によれば次の如し

品目	數量	價額
木鞘鉛筆	三、二二七、二〇〇哥	四、三九二、六〇〇圓
金屬鉛筆	六五、四〇〇哥	九五八、八〇〇圓
計	三、二八二、六〇〇哥	五、三五一、四〇〇圓

2. 生産組織

工場数	510人	2130人	3150人	5100人	計
職工数	224	2321	160	243	859

工場生産額は百六十萬圓であるが東京の全生産額五百萬圓以上であるのから推すと小工業者の數如何に多いかが断定さる。

1. 輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額	六五一、〇〇〇圓
東京輸出額	五〇〇、〇〇〇圓

自昭和三年四月、至昭和四年三月、東京輸出鉛筆工業組合の輸出検査價格左の如し。

品目	數量(哥)	價額(圓)	品目	數量(哥)	價額(圓)
繰出鉛筆	二八、三四八	一九八、三〇九	特殊ノ装置アル鉛筆	二七六	二、三六
色芯鉛筆	一一、五四	二二六、二六	白杉材ヲ用ヒタル鉛筆	六五一	二、〇八七
白杉以外ノ輸入材ヲ用ヒタル鉛筆	一〇、三七七	一四九、六〇	欄其他ノ材料ヲ用ヒタル鉛筆	二〇六、九〇七	二四九、九七三

色芯

計

東京、大阪計

以上の表によれば本邦の輸出額百萬圓以上東京の輸出額五十萬圓に達する。

2. 仕向地

東京輸出鉛筆工業組合調査の仕向地は左表の如し。

仕向地	鉛筆		鉛筆芯		計
	數量(哥)	價額(圓)	數量(哥)	價額(圓)	
支那	一〇、二一五	二五四、五六六	二〇、七九四	三、二八〇	一二一、九五二
英領印度	三七、三九四	四五七、一六	四七	三、二八〇	二五七、八一六
南洋	七四、三七五	一一〇、六四二	三六	一〇	四七、四一
麻尼刺	一五、三八三	二〇、五五九	一三	四	三七、四一
加奈陀	一四、九六八	二〇、四〇六	一	一	四、五八
北米	三、三七七	一〇、八七六	一	一〇	一、四九六
濠洲	四、五六六	一一、一〇六	三	五	三、三八八
香港	二八	六九六	一〇	三	一〇、八八八
計	二七九、一三五	四九三、四三七	一〇九	三三	一一一、二二一
東京、大阪計	五八六、二一六	九八八、八一七	二〇六、九〇七	二四九、九七三	六三三

南米	三、二四一	六、八〇五	四七	九	三、二八八	六、八一四
英國	五〇〇	五〇〇	—	—	五〇〇	一、五〇〇
蘭領印度	五五三	三、七七五	七	二五	六三五	三、八〇〇
埃及	一、五七五	一、六三五	—	—	一、五七五	一、六三五
ブラジル	五二〇	九七〇	—	—	五二〇	九七〇
バンクーバー	五〇二	一、八五四	—	—	五〇二	一、八五四
露國	六七	五六八	—	—	六七	五六八
濠太刺利亞	一、〇一〇	二三五	—	—	一、〇一〇	二三五
新嘉坡	四	一四四	—	—	四	一四四
印度支那	二四	六六	—	—	二四	六六
計	二五八、二四五	四九〇、〇八一	二二、〇五三	三三、五六	二七九、二九七	四九三、四三七
3. 其他						

輸出先は主として支那印度南洋方面で文化の程度低く安價なる本邦品で充分其要求を充たし得るのが輸出の主要原因で歐洲大戰後本邦製鉛筆の價値を周知せしめることが出來た。輸出は主として問屋の手を經る。

◎ インキ

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額	八、三九九、〇七五圓
印刷インキ	六、〇三一、五一二圓
其他ノインキ	二、三六七、五六三圓
東京生産額	五、一〇八、五二八圓
印刷インキ	三、〇二三、七三九圓
其他ノインキ	二、〇八四、七八九圓

2. 生産組織

工場數	五	五二〇人	二一三〇人	三一五〇人	計
職工數	三八	八八	四	五	一九七
輸出額					三二二三

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額	九九六、〇〇〇圓
東京輸出額	六二三、〇〇〇圓
2. 仕向地	
支那	六五
關東州	二五
香港	八
其他	二

第七章 絲縷索及同材料

◎ 綿織絲

一、生産状況	
1. 生産額	
本邦生産額	五四六、三二二、一七三圓
東京生産額	三〇、五一八、四八六圓
2. 生産組織	

斯業は機械による大工場組織で七工場一萬二千三百八十八人の職工によつて生産さる。

一、輸出状況

1. 輸出額	
本邦輸出額	二五、八九四、〇〇〇圓
東京輸出額	一、三二五、〇〇〇圓
2. 仕向地 (百分率)	
支那	三四
英領印度	二五
香港	二〇
蘭領印度	三
關東州	三
埃及	三
其他	一一
3. 其他	

昭和三年本邦輸出額は二千五百九十萬圓で前年に比し實に千二百九十萬圓の激減である。從來本品の重なる仕向地は英領印度及支那であるが印度に於ては昭和二年九月二十二日から綿糸に對して一封度の價額一留比十四安以下のものに一封度に付一安半の從量税を賦課することになつたので太絲及中絲の印度輸出は致命的打撃を蒙り其影響は益々濃厚となつて昭和三年の輸出は約九百萬圓で前年の二千萬圓に比して五割五分の激減である。之に反して殆ど影響ない英國の昭和三年の對印輸出額二百四十萬磅は前年に比して寧ろ増加の傾がある。

支那への輸出に關しては同國の動亂の上に排日貨の影響も加つて本邦絲の輸入は約八百萬圓で前年に比して約百萬圓の減少である。

第八章 布帛及同製品

◎ 綿織物

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額	七五、八五七、八〇三	東京生産額	一七、六七五、四三〇
生金巾	一四一、六七四、三五六	生金巾	一一、三四〇、三一一
生シーチング	四六、八五五、三九一	生シーチング	二、三五三、〇〇〇
晒金巾	一、三二一、九六三	晒金巾	六五、五〇一
綿繻子	四五、三四一、三六八	綿繻子	一、〇一五、五三二
綾木綿	七、五〇二、四九〇	綾木綿	二二八、二四二

2. 生産組織

工場数	二二三	織物業	五、	計	五〇
	五、一〇人		二、一三〇人		一〇一人
	二、一三〇人		三、一五〇人		二〇二人
	一、五		五、		六

職工数

一六二	二七八	二〇九	七一	七、二一四	七、九三四
-----	-----	-----	----	-------	-------

東京に於ける斯業は家内工業的のもの少くて、工場工業的のものが多く殊に施設完備したる大工場の数が他の工業に比して比較的多數にのぼてゐる。

生金巾、本品は経緯共に22—50番手の單絲を用い平織になしたるもので、幅は15—45吋、一疋の長さは36—50碼で、世界に於て需要の廣い織物の一つである。本邦に於ては専ら無地染となして衣服の裏地に用ゆるが、支那に於ては輸入しだる生金巾を染めて上衣に使用するものが多い。

生シーチング、本品は金巾に比すると稍番手の太い單撚絲を用い製織したる稍厚地の平織綿布で、小幅物は36吋大幅物は45吋以上90吋に達するものがある。主に生地の儘或は漂白して晒シーチングになして臥褥用敷布に用ひらる。

晒金巾、本品は生金巾を漂白したるものである。上等品はホワイトシャツの材料に供せらるるもの多く其外夏期の肌衣、窓掛等に供し、又染めて衣類地に用ひらる。

晒シーチング、本品は生シーチングを漂白したるものである。主に臥褥の敷布に用ひらる。綿繻子、本品は經に36—40番手の單撚絲又は80—100番手の双子絲、緯に40—45番手、又は60—80番手の双子絲を用い繻子織にしたるものである。洋服裏地、足袋の表、衣類の襟等に使用せらる。

綾木綿、本品は雲齋布とも稱し、經に13—18番手の單撚綿絲、緯に10—14番手稀に20番手までの單撚

七〇
 絲を用いて織つた三枚綾の厚地綿布である。本品は支那に於てシーチングと共に下層社會の衣料として需要が多い。

細綾木綿、本品は經緯共に20番手前後の單撚綿絲を用い、普通は生又は晒であるが、稀には色絲を用い、緯に晒絲を織りたるものがある。支那では衣服に用られ、歐米では裏地、肌衣等に用いらる。

更紗、本品は生金巾又は晒金巾を捺染したるもので、片面のものと両面のものとある。

一、輸出狀況

1. 輸出額

本邦輸出額		東京輸出額	
生金巾	三三,三二七,〇〇〇	生金巾	七,五九四,〇〇〇
生シーチング	六九,八〇九,〇〇〇	生シーチング	二,三三三,〇〇〇
晒金巾	二五,五三三,〇〇〇	晒金巾	五,五〇〇,〇〇〇
綿縞子	二一,五六〇,〇〇〇	綿縞子	四,五〇〇,〇〇〇
綾木綿	六一,〇四二,〇〇〇	綾木綿	二,九五六,〇〇〇
細綾木綿	二〇,二三三,〇〇〇	細綾木綿	四六,〇〇〇
更紗	四二,一〇一,〇〇〇	更紗	一〇,〇〇〇
其他	九,九一九,〇〇〇	其他	二六,〇〇〇
其他	一,〇〇〇,〇〇〇		

2. 仕向地 (百分率)

支那	四五	英領印度	二〇	蘭領印度	一一	埃及	五	香港	五	關東州	四
比律賓	二	其他	八								
其他											

昭和三年中本品の本邦輸出額は約三億五千二百萬圓で前年に比して二千九百餘萬圓減少である。本品の仕向地は依然支那を最たるものとして其他英領印度、蘭領印度、埃及、香港、關東州、東阿及南米等であるが之等諸國への輸出は大体に於て前半期は順調を辿つたが後半濟南事件のために誘發された排日貨は中南支に止らないで北支、南洋、海峽殖民地等支那人の勢力範圍に蔓延して其打撃を受け總輸出額は其前年より減少するに至つたのである。然れ共十月には長江筋の排日貨運動が一時的に緩和の色が見ゆるや實需を越して見込輸入が行はれたようで之が輸出額は本年の最高記録を示したのである。

其他上半期、下半期前半に亘る滿洲稀有の好賣行と、數字的には大でなかつたが下半期下半には印度方面の好需要とは輸出不振の折柄不尠刺戟材料であつたのである。

一、生産状況

1 生産額

本邦生産額

一三、三五六、一八三

東京生産額

三〇、五七九、〇二三

モスリン

八七、四五六、二一六

モスリン

二四、四七六、七九九

羅紗

一一、二五六、五八〇

羅紗

五、〇三二、二三五

洋服用セルヂス

一三、七四五、三八七

洋服用セルヂス

一〇、八九〇、八九

2. 生産組織

斯工業は機械力による比較的整備したる大工場組織で、モスリン工業は工場五、職工數四千八百六十人を有する。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額

三、一四三、〇〇〇

東京輸出額

三六六、〇〇〇

モスリン

五、八〇〇、〇〇〇

モスリン

一、五四〇、〇〇〇

羅紗及セルヂス

二、六五〇、〇〇〇

羅紗及セルヂス

二、二〇〇、〇〇〇

モスリンの輸出は前年に比して六萬圓の減少で、羅紗及セルヂスの輸出は十六萬圓の激増である。

2. 仕向地 (百分率)

支那 五〇

關東州 四六

英領印度 一

3. 其他

近時本邦輸出毛織物は輸出品としてのモスリンの需要減少のため稍不況裡にあつたが大正十五年三月毛織物類の輸入に増税行はれてから、羅紗、セルヂス、ウーステッド、サージの如きは著しい増産を見るに至り、一方支那及關東州の如き文化の發達と共に男女共洋裝盛となつて薄手サージ、紺サージ、ウーステッド等の需要増加したので之等の本邦品は價格と地利とによつて英國品と競争するに至り、殊に支那では本年日貨排斥があつたのにも係らず前年に比して非常なる激増を示したのである。従來本邦輸出毛織物の大宗であつたモスリンは之が主なる輸出先である支那、南洋、アメリカ、印度地方に於ける捺染ものの需要が近年富士絹、人絹織及人絹應用綿布に代用せられるに至つたのと、肩掛、襟卷等に使用せられたる捺染ものの需要が近時獨逸、伊太利等に於て生産せられる屑毛製肩掛の輸入によつて浸蝕せられたのと本邦モスリンの相場の高低甚しい爲に之等取扱業者が其取扱を多少忌避したのによつて本年は前年に比して甚しい不勢を示したのである。

要するに本年毛織物の輸出は毛織工業の發達によつて服地としての隣邦諸國の需要の増進に伴ひ頗る順調であつたと云ふことが出来る。

一、生産状況 (不明)

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額

五〇六、〇〇〇圓

東京輸出額

三三〇、〇〇〇圓

2. 仕向地 (百分率)

北米 八一 加奈陀 七 關東州 四 其他 八

3. 其他

海外渡航の本邦人又は海外在留邦人の需要する所である。

第九章 衣類及同附屬品

◎ 莫大小製品

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額

三三、二四、七三 圓

東京生産額

五、七六、六六 圓

綿メリヤスシャツ

二二、六六、六八

綿メリヤスシャツ

三、四五、五一

メリヤス靴下

八、七七、〇六七

メリヤス靴下

二、〇八、六〇九

メリヤス手袋

一、四五、〇三八

メリヤス手袋

一、七六、四八八

東京莫大小同業組合員の昭和三年生産額は次の如し。

品目	品質	數量	價額	品目	品質	數量	價額
肌衣裏毛上下	毛	二、四九九	二六八、九七六	肌衣裏毛上下	綿	七〇、二五	六八二、二五三
肌衣上下	毛	二〇七、四三一	三、〇六一、三四七	肌衣上下	綿	四七、九八七	五〇六、九二〇
網シャツ	毛、綿	二、三〇〇	一、二六、〇〇〇	手袋	毛	三二、五五〇	一、三三、六五〇
手袋	綿	六三、五五〇	二、四二、一五〇	織手袋	毛、綿	二六三、四二七	三、一六、六七三
靴下	絹	一、六五〇	二、三三、〇〇〇	靴下	人絹	三八、一五〇	一、一八、三〇〇
靴下	毛	二、一八、〇九〇	九、二六、七四〇	靴下	綿	一、二八三、四一三	二、九四九、六九七
猿股	毛	一、六六〇六	一、五三、九三二	猿股	綿	二四〇、二七二	七、七、一七六
セーター、 ジャケツ	毛、綿	九五、〇〇〇	二、四八八、〇〇〇	首卷	毛、綿	二、〇〇五	三、四、九七五
腹卷	毛、綿	四〇、九三三	四、九、三三三	腰卷	毛、綿	三、四、三〇〇	六、七、五、七、一〇
足袋、カバー	毛、綿	七、七〇〇	二、七、三、六〇	雜種	毛、綿	二、〇、三、六八	六、九、一、四、三、七



莫大小機械

一九七五臺 三三五、五六三

莫大小針

四八二、〇〇〇本

九二四三三

七六

合計

二、七七七、三六打、一九七五臺、四、八二八、〇〇〇本

一五、〇五八、五三四圓

四八二、〇〇〇本

九二四三三

昭和三年の生産額は前年に比して製品數量に大差ないが金額に於て原糸の低下に因つて減額したのである。

2. 生産組織

東京莫大小同業組合員の製造業者は七百三十八人、裁縫仕上業者は百二十七人であつて大部分は家内工業者で、又大部分内職である。莫大小類の半製品は大部分工場で生産されるのであるが、カガル部は全部内職として残されるのである。此のカガリは編み目と編み目とを合せて共糸でカガルのとミシンでカガルのとの二種ある。莫大小工場は主として本所、深川方面に散在して居る關係上此の方面に多くの内職従業者を有してゐる。

メリヤス工場

五—〇人

二—三〇人

三—一五〇人

五—一〇〇人

一—〇一人

計

工場數

一—一

四—

一—〇

三—

二—

一六七

職工數

七六八

七一四

四〇一

二二四

三〇八

二、四一五

一 輸出狀況

1. 輸出額

本邦輸出額

三三、三〇一、〇〇〇圓

東京輸出額

三三七、〇〇〇圓

綿メリヤスシャツ

二七、三七六、〇〇〇

メリヤスシャツ

一、六、〇〇〇

メリヤス靴下

四、八一七、〇〇〇

メリヤス靴下

一八三、〇〇〇

メリヤス手袋

四六七、〇〇〇

メリヤス手袋

一九、〇〇〇

其他

一九、〇〇〇

2. 仕向地

仕向地

肌衣

手袋

靴下

其他

計

支那

九四、八六一圓

九、三五三圓

五、四、七九圓

一、八、〇八四圓

一七、七、〇三六圓

南洋

一八、一九五

一、三七

二、六、三三四

一、四、〇四

四、六、三七〇

露國

一、二、五

八、五七九

七、三五

—

一〇、五七二

英國

六三〇

—

七、三八〇

—

七、四、五一〇

南米

一、四、二〇

—

二、五、六四八

—

二、七、〇六八

アフリカ

—

—

四、七三

—

四、七三

濠洲

—

六〇〇

四、五〇

—

一、〇、五〇

七七

合計 一二六三四 一八六六八 一八二五五九 一九四八八 三七〇七九

七八

支那は嶄然頭角を現し、英國、南洋、南米の順序である。

◎ シャツ類 (綿メリヤスシャツを除く)

一、生産状況

生産額 生産組織等明でないが家内工業が大部分である。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額	二,二〇,〇〇〇 圓	東京輸出額	三九,〇〇〇 圓
綿縮製	一,〇八五,〇〇〇	綿縮製	五〇,〇〇〇
絹製	三三三,〇〇〇	ワイシャツ	六六,〇〇〇
ワイシャツ	四〇二,〇〇〇	其他	二八三,〇〇〇
其他	三七一,〇〇〇		

2. 仕向地 (百分率)

綿縮製
 蘭領印度 四一 海峽殖民地 二四 關東州 九 其他 二六

ワイシャツ

蘭領印度 四〇 關東州 二六 英國 一五 其他 一九

◎ 絹製品

一、生産状況

肩掛、手巾の生産額は詳かでない。手巾は大部分家内工業である。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額	六三九,〇〇〇 圓	東京輸出額	二,七六,〇〇〇 圓
肩掛	八九五,〇〇〇	肩掛	三五六,〇〇〇
手巾	五,二〇五,〇〇〇	手巾	二,三二〇,〇〇〇
其他	二二〇,〇〇〇	其他	一五〇,〇〇〇

2. 仕向地 (百分率)

肩掛
 英領印度 二〇 北米 一六 埃及 一三 海峽殖民地 一一 蘭領印度 一一
 暹羅 一一 加奈陀 九 其他 九

七九

手巾

八〇

北米 四〇 英領印度 一一 亞爾然丁 一一 加奈陀 一〇 其他 二八

◎ 帽子

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額	一三、九三〇、六四二	東京生産額	三、一三〇、一四七
模造バナマ製	八二〇、六七三	模造バナマ製	三九八、五六六
フェルト製	八、三九四、五九六	フェルト製	二、〇〇八、五三〇
麥稈製	一、七九四、五五五	麥稈製	六五七、五二六
其他	一、九二〇、八二八	其他	六五、五二五

東京帽子同業組合調査によれば次の如し。

品目	生産數量	價額	品目	生産數量	價額
麥稈製一文字	一、二五、七〇〇	八九六、七七五	麥稈製小供、女唐、帽	一〇一、八〇〇	五〇九、三〇〇
麥稈製勞働帽	三三、八八〇	一三五、四三〇	大甲紙製バナマ帽	三八、五〇〇	五一一、三〇〇
フェルト製中折、中山帽	九四、四五〇	一、八七六、八六〇	羅紗製學帽	一三九、八〇〇	七三九、八六〇

織物製小供帽

鳥打帽

二六、〇五〇 一、一七五、三五〇

合計

七三、四八〇 六、六五〇、〇六五

2. 生産組織

工場數	一一	三	五	二	二一
職工數	七九	六〇	一	三三四	三三〇
計	五一一〇人	二一三〇人	三一五〇人	五一〇〇人	一〇一人

フェルト製帽子、麥稈製一文字帽子及バナマ帽の製造は工場工業的のものが多いが其他は主として家内工業である。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額	一三、一九四、〇〇〇	東京輸出額(東京帽子同業組合調)	八〇、九〇〇
模造バナマ製	二八六、五四五	打	三、〇五五、〇〇〇
麥稈製	一、二五、七四九	其他	九六〇、〇〇〇
東京輸出額(東京帽子同業組合調)	八〇、九〇〇	打	六九三、〇〇〇
麥稈製一文字帽	一、二三〇〇	打	九七、一〇七
		鳥打帽	一七八〇〇
			一三五、二八〇

麥稈製小供女唐帽	九三五〇	麥稈製勞働帽	二,五〇〇
大甲紙製バナマ	四,二〇〇	フェルト製 中折、山高、其他	九,八〇〇
學帽	九,八五〇	織物製小供帽	一五,二〇〇
2. 仕向地			六,八〇〇
英國	二五	北米	一七
其他	二八	支那	一五
		關東州	六
		蘭領印度	五
		英領印度	四

東京製品の八割は問屋の手を経るので生産者直接の輸出は僅少である。

◎革製靴

一、生産状況	
1. 生産額	
本邦生産額	七、二四九、八四八圓
東京生産額	四、八四四、九三六圓
2. 生産組織	

工場數	五二〇人	二一三〇人	三一五〇人	五二一〇〇人	一〇一人	計
職工數	一七	五	一	二	三	二七
	一一〇	七二	一〇四	四八〇		七六六

斯業の大部分は修繕業を兼ねたる家内工業である。

一、輸出状況

1. 輸出額	
本邦輸出額	二一〇、〇〇〇圓
東京輸出額	一一二〇、〇〇〇圓
2. 仕向地 (百分率)	
海峡殖民地	四〇
關東州	二五
蘭領印度	二二
露亞	五
其他	八
◎ スリッパ	

一、生産状況

本品は底に革或はフェルト其他模造革を用い、甲は羅紗、フェルト地氈、革又は蘭等を以て作った室内用靴で、其形状は指先のみ甲を有するもの又は全部浅い甲を有するものがある。又其底も低い踵を有するものと、踵を有しない平底のものがある。婦人用スリッパは普通絹ブラッシュ、絹縺子又は

羅紗等で製して刺繡を施したるもの多く、又婦人用及小兒用のものはメリヤス地で製して革底を附したるものがある。生産額不詳

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額 五五七、〇〇〇圓

東京輸出額 二〇八、〇〇〇圓

2. 仕向地 (百分率)

蘭領印度 一八 布哇 一五 海峡殖民地 一一 北米 九 玖馬 七 其他 四〇

◎ 洋服

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額 七、五三七、五五七圓

東京生産額 九七一、三四〇圓

2. 生産組織

洋服の材料は毛織物、綿織物、麻織物、絹織物等で季節の寒暖又は嗜好の如何によつて種々異なる。

本品は元外國から輸入され急激に需要増加したが、現在に於ては製服材料の外製品を輸入すること殆どない。本邦より輸出するものは大部分工場用作業服である。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額 六六五、〇〇〇圓

東京輸出額 五三九、〇〇〇圓

2. 仕向地 (百分率)

北米 五〇 英國 一五 露亞 七 比律賓 六 加奈陀 六 關東州 五

其他 一一

第十章 紙及同製品

◎ 紙

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額 一七五、三七五、六二圓

東京生産額

三三、八七九、二八〇圓

八五

印刷料紙	八六六九、〇一四	印刷料紙	二四〇八五、〇五六
板紙	一五、七〇〇、六六四	板紙	二、七三四、九〇一
2. 生産組織			
工場數	五一〇人	二一三〇人	三一五〇人
職工數	一一	一〇	二
	八四	二二〇	八六
			四二六
			二、七六五
			三、五八一
			計

1. 輸出額			
本邦輸出額	二五、六七三、〇〇〇	東京輸出額	四、六七六、〇〇〇
印刷料紙	一三、九三八、〇〇〇	印刷料紙	三、一一〇、〇〇〇
板紙	二、六六一、〇〇〇	板紙	三三二、〇〇〇
包装用紙	一、二八四、〇〇〇	包装用紙	五五、〇〇〇
雁皮紙及薄葉紙	七六八、〇〇〇	雁皮紙及薄葉紙	二五〇、〇〇〇
連史紙	五六六、〇〇〇	連史紙	一三〇、〇〇〇
塵紙	四八三、〇〇〇	塵紙	五〇、〇〇〇

其他	六、九七二、〇〇〇	其他	七五〇、〇〇〇
2. 仕向地 (百分率)			
支那	六二	關東州	一五
		香港	七
		北米	五
		其他	一一
3. 其他			

本品の本邦輸出額は二千五百六十七萬二千圓で前年に比すると三割四分の増加を來したのである。紙類中輸出額最も多いのは印刷用紙で其額一千二百九十三萬八千圓に達し紙類輸出額の四割一分を占めてゐる。印刷用紙は支那が主要輸出先で本年の對支輸出額は一千萬圓に及んでゐる。前年は各地動亂及排外運動のため、漢口及廣東方面の如きは全く不振であつたが、本年上期に入つて此方面は賣行頓に良好となる。下期も引續いて好望視せられたが濟南事件以後排日貨運動に依つて輸出減少したのである。上海及天津方面は之に比すると相當の賣行があつて結局全支を通じて輸出額を増加したのである。板紙は英領印度及南洋方面に輸出がある。

1. 生産狀況	
生産額	
本邦生産額	一九二、七〇六、二二二圓

東京生産額

七五、一二七、八八六圓

2. 生産組織

印刷業

五、一〇〇人 二、一三〇人 三、一五〇人 五、一〇〇人

一〇二人

計

工場數

三三〇 一五二

三九

二六

三七

五八四

職工數

二、三〇六 二、八一

一、四二九

一、八〇六

一〇、一三五

一八、四八七

製本業

五、一〇〇人

二、一三〇人

三、一五〇人

五、一〇〇人

一〇二人

計

工場數

一九五

四七

一五

四

四

二六五

職工數

一、三二三

七九二

七〇二

二八八

四四一

三、五四六

一、輸出狀況

1. 輸出額

本邦輸出額(書籍及雜誌)

一、三八九、〇〇〇圓

東京輸出額

一、〇七七、〇〇〇圓

書籍及雜誌

九九六、〇〇〇圓

印刷物

八一、〇〇〇圓

2. 仕向地 (百分率)

書籍及雜誌

關東州 四八 北米 二一

布哇 二四

支那 一二

其他 五

印刷物

支那 四三 蘭領印度 四〇

關東州 二二

海峽殖民地 三

其他 二

3. 其他

輸出される書籍及雜誌は主として在留邦人によつて購讀される。小包によつて輸出される書籍及雜誌は實に多額に昇る。

第十一章 礦物及同製品

一、生産狀況

1. 生産額

本邦生産額

八五、四五七、一八四圓

東京生産額

五、〇三八、四二二圓

2. 生産組織

斯業は比較的生産組織大で東京に於けるセメント工場は淺野セメント株式會社の一工場―職工數三百四十五人―と磐城セメント株式會社の一工場―職工數七十人―であるが後者は目下休業中である。

一、輸出狀況

1. 輸出額

本邦輸出額

六、八八五、〇〇〇圓

東京輸出額

三二一、〇〇〇圓

2. 仕向地 (百分率)

蘭領印度 三五 海峽殖民地 一九 比律賓 一六 香港 一三 支那 五

英領印度 五 關東州 三 其他 四

昭和三年の本邦輸出は前年に比すると二十三萬圓の減少を示してゐる。之を輸出國別に就て見るときは蘭領印度は前年同様第一位を、海峽殖民地は亦同じく第二位を占めて居るが孰れも前年に比して幾分の減少であるに反して比律賓、香港、英領印度等は孰れも前年に比して幾分の増加である。要之本年に於けるセメント貿易は大躰の市場に於ては前年に比して増加を示したが主要輸出先である蘭領印

度及海峽殖民地の二ヶ國に於ける輸出大激減と之に加へて關東州への輸出減に因つて前年に比し不成績を來したのであるが、その減少理由は土地に依つて特殊の原因もあるが其共通原因としては在留支那商人の日貨排斥に因るもので此間に乘じて土、伊、丁、獨等の歐洲セメントの活躍に基因するものである。

3. 其他

本邦品は品質も優秀で歐洲品に比して遜色がないばかりでなく運賃も有利で且生産制限の餘剩分を輸出品として振向くる關係上價格も低廉なるを以て漸次海外市場に確實なる地歩を占めてゐるが同業者の組織して居る輸出セメント同業會の裏を潜つて安値販賣を行ふものがあるので市價歐洲品に比して常に一圓乃至一圓五十錢方安値にあるのは惜むべきことである。

第十二章 陶磁器及硝子類

◎ 陶磁器

一、生産狀況

1. 生産額

本邦生産額

三二一、四二〇、九七〇圓

東京生産額

一二三、八六九圓

2. 生産組織

計 五一〇人 二一三〇人 三一五〇人

工場數

一〇〇 三 一 一四

職工數

六一 四一 四五 一四七

一、輸出狀況

1. 輸出額

本邦輸出額

三四、六四二、〇〇〇圓

東京輸出額

一四一、〇〇〇圓

2. 仕向地 (百分率)

北米 四〇 蘭領印度 一四 英領印度 七 支那 六 其他 三三

◎ 硝子製品

一、生産狀況

1. 生産額

本邦生産額

四四、二六七、九五〇圓

東京生産額

六、〇五一、一九八圓

本邦に於て硝子工業の最も盛なるは大阪で東京は遠く及ばない。其原因とも見るべきものは、大阪は東京に比して生産上に於て燃料、硝子原料を得るのに有利の地位にあるから生産費少く且支那南洋への輸出貿易に於て地の利を有する等である。東京製品が大阪製品に對抗し得る唯一の點は品質優良なることである。昭和三年に於ける大阪の生産額は二六、九四九、一八四圓(大阪硝子製造同業組合の調査)東京の生産額は八、七八四、一三六圓(東京硝子製造同業組合の調査)である。東京硝子製造同業組合調査の生産額は次の如し。

品目	昭和三年	昭和二年	品目	昭和三年	昭和二年
ビール樽	一圓	二五〇、〇〇〇圓	酒、醬油、鍍泉樽	一七三、三七一圓	二四八、〇〇〇圓
各種薬纒	八〇七、二六一	九五五、〇六〇	化粧品纒	一、〇〇九、八三〇	一、〇三四、四四〇
斤纒及菓子器	二五九、四〇〇	二七六、五六〇	其他各種纒	九七七、六三一	一、〇六二、〇一五
各種食器	八〇三、六六六	一、〇三八、四三三	壓搾食器	一九六、四五六	一八九、九六四
火 舍	三三、〇〇〇	二八〇〇	電球及管	二、三五〇、六〇〇	二、三六九、三五〇
ランプ笠	四五三、〇〇〇	四九七、三九〇	ランプ油壺	一六、〇〇〇	六八五〇
汽車及船燈用器	八九、四七二	一五三、八〇〇	醫療器及理化學器	一一、二八、六三三	一、〇九〇、三九一

寒暖計及比重計	七〇,〇〇〇	九三,五〇〇	レンズ各種	七四,〇四〇	一八五,一八二
室内容器	五〇,三五〇	四二,〇〇〇	簾	五,〇〇〇	六,〇〇〇
文房具	一三五,〇〇五	一五〇,六三六	諸細工玩具	一七五,四二二	一七六,五〇〇
計	八,七四一,三六	九,七三〇,四九一			

東京硝子工業地帯が大部分江東にあるを以て區劃整理のため休業中のものや廢業したものあるため昭和三年は前年に比して生産額減少したのである。

2. 生産組織

工場數	七〇	五九	二六	一九	四	一七八
職工數	五〇三	一,二〇六	九八五	一,二一六	六四四	四,五五四
計	五一一〇人	二一三〇人	三一一五〇人	五一一〇〇人	一〇一人	計

硝子工業は未だ手工業の域を脱しない。五十人以上の職工を有する工場二十有餘あるが三十人以下の職工を使用する工場は全工場の三分の二を占め家内工業的のもの多い。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額 一一二、九四一、〇〇〇圓

硝子罎	四、五一六、〇〇〇圓
硝子コップ	二、三六五、〇〇〇圓
東京輸出額	四〇四、〇〇〇圓

東京硝子製造同業組合調査の東京輸出額は四〇三、四九七圓で大阪硝子製造同業組合調査の大阪輸出額は一六、四三三、四九一圓である。

2. 仕向地 (百分率)

東京硝子製造同業組合調査の昭和三年輸出状況次の如し。

品目 / 仕向地	支那	印度	南洋	濠洲	亞弗利加	北米	其他	計
罎	四三,五九八	三三,七二一	八,三三二	一四,〇〇四	—	八六八	八,九二〇	一〇九,四三三
食器	四四,九四一	五,三二二	二六,三二一	四六,三〇二	二	五,五六〇	二,八六九	二二一,〇六七
食料容器	九三,五七	九〇八	二一,一〇六	二七,七七七	三四	九〇三	三〇四	六〇,三八九
ホヤ	一,五五六	—	四三	—	—	—	—	一,五九九
ランプ油壺	四一三	六〇	一一,三九	七五	—	一,九	—	二,〇四二
試験管	三,七三九	—	—	一八〇	—	—	八〇	三,九九九
ピーカー	一,三八〇	—	三四	—	—	—	—	一,六八四
計	一三,八〇	—	三四	—	—	—	—	九五



フラスコ	一、六三六	六六一	—	—	—	二、三〇二
漏斗及分液漏斗	六九三	二五九	—	八	—	九六三
計	一〇七、三〇三	四〇、八九〇	一四七、二八四	八八、三四六	三六	七、四四二
						一一、二九六
						四〇三、四九七

3. 其他

關東大震災火災に依つて全滅したる東京硝子工業の輸出貿易は遂年回復の情勢を示してゐるとは云ふものの關西地方の製品におされて進展の歩調誠に遅々として大震災火災前に比すると誠に寥々の感に堪へない。而して「東京製品は優良なり」との從來の聲價に依つて取引を保持してゐる。東京製品は一般に上物で品質等に於て不良と認むべきものは殆どない。

第十三章 鑛及其他金屬

◎ 鐵

一、生産狀況			
本邦生産額	八三、六五七、〇八九	東京生産額	四、四八一、一三三
塊及錠	二八、五三四、六一九	塊及錠	一、一四五、五六三
線索	七、二六四、〇一六	線索	八三九、〇一七

條竿及板	四七、八六八、四五四	條竿及板	二、四九六、五四二
------	------------	------	-----------

一、輸出狀況

1. 輸出額			
本邦輸出額	四、八四六、〇〇〇	東京輸出額	一五〇、〇〇〇
線索	五二〇、〇〇〇	線索	一四〇、〇〇〇
條竿及板	二、二八八、〇〇〇	條竿及板	五、〇〇〇
		塊及錠	五、〇〇〇

2. 仕向地 (百分率)

關東州	五三	支那	三六	露亞	八	其他	三
-----	----	----	----	----	---	----	---

◎ 銅

一、生産狀況			
本邦生産額	五〇、四一五、五九四	東京生産額	一、六三九、九三五
塊及錠	一一、四七三、四四八	塊及錠	一一四、八九九
線	二四、九五五、八一〇	線	三〇三、九〇六
板	一一、九四七、三三六	板	一一、二二一、一三〇
			九七

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額

二、五〇五、〇〇〇圓

東京輸出額

九七、〇〇〇圓

線

一、五九九、〇〇〇

線

四六、〇〇〇

板

五六三、〇〇〇

板

五二、〇〇〇

2. 仕向地 (百分率)

板

支那 七四

關東州 一八

香港 六

其他 二

線

關東州 五〇

支那 一八

蘭領印度 一一

英領印度 七

其他 一四

第十四章 金屬製品

◎ 絶縁電線

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額

七七、六一一、七六〇圓

東京生産額

二一、六八二、四一九圓

2. 生産組織

電線及絶縁電線の工場及職工數

五、一〇〇人

二、一三〇人

三、一五〇人

五、一〇〇人

一〇一人

計

工場數

二

二六

四

一

四

三七

職工數

一三

四〇八

一五八

八八

一、六四九

二、三一六

絶縁電線とは即ち護謨被覆線である。東京に於ける斯業は三十七工場、職工數二千三百十六人、生産額二千二百萬圓で本邦生産額の四分の一強を占む。百人以上の職工を有する工場は四で其職工數は一、千六百四十九人である。而して輸出品はこれらの工場の製品多く品質は歐米品に比して著しい遜色はない。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額

二、七八五、〇〇〇圓

東京輸出額

一、二二八、〇〇〇圓

2. 仕向地 (百分率)

關東州 三七 支那 二五 比律賓 二三 香港、蘭領印度 其他 一五

輸出先は關東州第一位で三割七分を占む。主として滿鐵の事業に消費せらる。次は支那で二割五分に當る。支那への輸出は大いに増加した跡がある。その原因は上海にあつた中華製作所が昭和二年七月以來閉鎖されたので從來同所から供給してゐた電燈線、被覆線等の需要を本邦製品に依つた結果である。

香港、英領印度及南洋方面は歐洲戰爭中多額輸出されたが其後歐洲品に市場を回復され最近は著しく減少したのである。

◎ 農具及工匠具

一、生産狀況

1. 生産額

本邦生産額 六、四六七、五〇九圓

東京生産額 一、三六八、八一圓

農具土工具 四、四三六、五四三

農具土工具 五三、九七六

工匠具及物類 二、〇三〇、八六六

工匠具及物類 七五〇、九〇三

2. 生産組織

工場數 五二〇人

職工數 二一三〇人

計 三二五〇人

計 五二〇〇人

工場數 四

職工數 二六

計 一

計 四三

計 五七

計 二二六

農具及工匠具とは農業及工匠の用ゆる器具の總稱である。

一、輸出狀況

1. 輸出額

本邦輸出額 五〇二、〇〇〇圓

東京輸出額 一四七、〇〇〇圓

2. 仕向地 (百分率)

關東州 六三

支那 二四

布哇、比律賓、露亞 一三

3. 其他

輸出の大部分は關東州を含む支那方面でこれは一つに、地理的近接の關係と、本邦品の價格廉なるに依る。

◎ 銅製品

一、生産狀況

1. 生産額

本邦生産額 一、二五〇、〇〇〇圓

東京生産額 一九〇、〇〇〇圓

2. 生産組織

本品の種類は多数で其主なるものは置物、花生鉢類、飾壺、灰皿等である。本品は我國獨特の手先工業で歐米人の模倣だに爲し得ない所である。

一、輸出状況

1. 輸出額

東京輸出額 四五、〇〇〇圓

2. 仕向地 (百分率)

關東州 二六 支那 二四 暹羅 一三 其他 三七

◎ 眞鍮製品

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額 六四七、九〇八圓

東京生産額 八七、六四六、圓

2. 生産組織

五二〇人 二一〇人 三一〇人 計

工場數 一〇 五 一 一六

職工數 六〇 七二 三三 一六四

本品には鑄造、鋳起の別がある。本品種類は多種で一々枚舉に違がない。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額 八〇三、〇〇〇圓

東京輸出額 二六、〇〇〇圓

2. 仕向地 (百分率)

支那 二三 關東州 二〇 其他 五七

◎ 青銅製品

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額 一、二四四、八〇〇圓
東京生産額 一五〇、〇〇〇圓

2. 生産組織

本品は鑄造によるものと鋳起によつて成つたものとの別がある。何れも種々の方法で着色したるもので、多種多様の種類があつて、一々枚舉に違がない。斯業はアンチモニー工業者の兼業するもの多い。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額 五一三、〇〇〇圓
東京輸出額 七〇、〇〇〇圓

輸出向青銅製品の主なる生産地は長崎及大阪であつて東京の輸出額は多くない。

2. 仕向地 (百分率)

北米合衆國 五五 佛國 二四 其他 二一

◎ ブロンズ工藝品

一、生産状況

1. 生産額

五五〇、〇〇〇圓

2. 生産組織

東京輸出ブロンズ工藝同業組合に屬する製造業者四十あるも全部家内工業である。品目は人物置物、動物置物、花瓶、ブックエンド、電氣スタンド、建築金物、佛具、植木鉢等である。

一、輸出状況

1. 輸出額

數量

一八、三二〇貫

價額

五一四、九六〇圓

2. 仕向地 (百分率)

北米 六〇 佛國 一〇 英國 一〇 伊國 一〇 獨逸 一〇

3. 其他

本品の從來の生産状態は其製作工程である原型、鑄造、仕上の三工程が各々種別的に個々分立し且つ考案意匠等を秘密にするので其工藝上の統一に缺くる處あるのは勿論従つて製品の規格統制並に之が價格の協定等に頗る困難なるものがある。尙技術上の研究其他重要な施設なく製品は京濱に介在する貿易商等の手に依つて自由に支配せられるが如き現状にある。

◎ アンチモニー製品

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額

一、九九六、五〇〇圓

東京生産額

東京輸出金屬器同業組合の調査によれば昭和三年の生産數量は一七、五八六、五四〇個、價額は一、五三二、九三〇圓であるが實際の生産額は二百萬圓を突破するとみて可ならん。

2. 生産組織

本品はアンチモニーに鉛若くは錫を混じて製造し金、銀、ニッケル等の鍍金を施し、若しくは青銅色の着色をなしたるもので、品目は文房具、美術工藝品、土産物、食器の類で、本邦の主要産地は東京で他に大阪、神奈川等に多少生産するのみである。而して本品の十中の八、九は輸出向的製品である。東京斯工業者は七十あるが工場を有つて生産の全工程を完うするものは二、三に過ぎない。他は自己の工場をも有せず全部下職に出す。下職の種類は鑄造工、纏工、鍍金工である。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額

一、四二〇、〇〇〇圓

東京輸出額

一、四〇〇、〇〇〇圓

東京輸出金屬器同業組合の調査は數量九、七七八、八六〇箇 價額八五三、九三〇圓となつてゐるが約百七十萬圓の輸出額が眞に近からん。

2. 仕向地 (百分率)

北米合衆國 七〇

濠洲、印度、南洋、支那 三〇

3. 取引關係

横濱神戸の商館の注文によつて生産し商館の手を経て輸出する。

◎ アルミニウム製品

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額

八、五三四、〇五一圓

東京生産額

一、八八九、九二八圓

2. 生産組織

本品はアルミニウムの薄板を打抜き壓出等の方法に依つて種々の器物に成形したるもので食器及鍋類、牛乳沸、湯沸、鉢皿、其他日用雜具等である。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額 八四五、〇〇〇圓
東京輸出額 二五、〇〇〇圓

2. 仕向地 (百分率)

支那 六〇 關東州 二〇 蘭領印度 一〇 其他 一〇

◎ ニッケル鍍金製品

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額 三五、三七七、七〇九圓
東京生産額 一三、六二五、三二二圓

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額 六七一、〇〇〇圓
東京輸出額 一三〇、〇〇〇圓

2. 仕向地 (百分率)

支那 三〇 關東州 二〇 英領印度 二〇 蘭領印度 一五 其他 一五

◎ 鐵製品

一、生産状況

1. 生産額

生産額明かでないが鐵製品中の東京珐瑯鐵器の生産額は百二十萬圓乃至百三十五萬圓である。

2. 生産組織

工場數	五三	二六	六	四	一	九〇
職工數	三七二	四二五	二二七	二九二	一〇六	一、四二二
	五一〇人	二一三〇人	三一五〇人	五一〇〇人	二〇一人	計

鐵製品の種類は珐瑯鐵器、釘類、レール、ナイフ、縫針、傘骨、鍋及釜、其他のブリキ製品等である。

珐瑯鐵器業者は二十名で職工五人以上使用するもの十四名ある。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額 一三、六八三、〇〇〇圓

2. 仕向地 (百分率)

支那	五一	關東州	二〇	海峽殖民地	一二	香港	六	英領印度	五	其他	六
----	----	-----	----	-------	----	----	---	------	---	----	---

◎ 醫療器

一、生産狀況

1. 生産額

本邦生産額	一、八二七、一三五圓
東京生産額	七〇一、二三四圓

2. 生産組織

工場數	二六	職工數	一六七
計	二〇一人	計	一〇八
支那	二一〇人	關東州	二一〇人
關東州	三一五人	海峽殖民地	一一
海峽殖民地	五一〇人	香港	一
香港	一一	英領印度	一
英領印度	一	其他	一
其他	一	計	四〇

斯業は右の表以外に家内工業的のもの多數ある。

醫療器とは、外科器、産科器、眼科器、耳鼻咽喉科器、婦人科器、獸醫用外科器、疇兒治療用器、其他内科器、生理學試驗用器等各種の醫療に關する器械及器具類を包括したるものである。東京は本品の主要産地である。東京以外にも多少生産されるが優良品の製作は東京製品の右に出づるものはない。

一、輸出狀況

1. 輸出額

本邦輸出額	五六六、〇〇〇圓
東京輸出額	三八五、〇〇〇圓

2. 仕向地 (百分率)

支那	三〇	關東州	二二	海峽殖民地	一一	暹羅	八	北米	八	其他	二二
----	----	-----	----	-------	----	----	---	----	---	----	----

◎ 理化學器及其他學術器

一、生産狀況

1. 生産額

本邦生産額	七九八、七八五圓
東京生産額	二一六、七八五圓

理化學器の生産は京都に次いで盛んである。東京理化學器械同業組合の調査によれば生産個數約七百五十三萬五千個 價額約六百三十六萬五千圓である。

2. 生産組織

比較的設備完備してゐる大工場も二、三あるが大部分は家内工業である。それは昭和二年東京工場生

産額（職工五人以上使用工場の）二百十七萬圓に對して東京の全生産額六百三十六萬圓なるを以ても證明される。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額	一、四九、〇〇〇 <small>圓</small>	東京輸出額	五五二、〇〇〇 <small>圓</small>
理化學器	六三三、〇〇〇	理化學器	三二七、〇〇〇
其他學術器	八二七、〇〇〇	其他學術器	三三五、〇〇〇

2. 仕向地（百分率）

支那	四〇	關東州	二〇	南洋印度	二〇	北米	一〇	其他	一〇
◎ 樂器									

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額	四、五〇七、五八三圓
東京生産額	六五六、〇二二圓

2. 生産組織

工場數	三一〇人	二一〇人	三一〇人	五一〇〇人	一〇一人	計
職工數	三	八	二	二	一五	
	二五	一六六	六七	二三四	四九二	

東京樂器はハーモニカ、風琴、蓄音器等でハーモニカ製造の二工場は規模大である。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額	五五三、〇〇〇圓
東京輸出額	七二、〇〇〇圓

輸出品は主としてハーモニカ、玩具風琴、蓄音器等である。

2. 仕向地（百分率）

北米	五〇	關東州	二〇	支那	一五	印度、印度支那、濠洲等	一五
◎ 人力車及同部分品							

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額	三一六、七七五圓
-------	----------

東京生産額

零

2. 生産組織

職工五人以上を有する工場の生産額は全然ないので東京の斯工業は小工業者の集團と推定さる。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額

四九七、〇〇〇圓

東京輸出額

三一〇、〇〇〇圓

2. 仕向地 (百分率)

英領印度 五七

海峽殖民地 三二

支那 六

關東州 五

3. 其他

本品には一人乗及二人乗の兩種がある。兩種共箱は蒔繪附のものとして黒無地のものとして二種ある。本品の主要生産地は東京及大阪の兩地で、英領海峽殖民地及支那等を主として東洋方面に仕向けらる。外國競争者は佛蘭西製高級品、支那製品で、近時獨逸製車輪は價格上本邦販路を侵略せんとし、激烈なる競争を持續してゐる。併し本邦製車輪のみの輸入を仰いでゐる地方も多い。

◎ 自轉車及同部分品

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額

三、〇九三、〇八三圓

東京生産額

三四一、三七一圓

東京自轉車工業組合昭和三年調査によれば生産數量七、八一二輛 價額 二九六、八〇〇圓

2. 生産組織

東京の斯工業は大阪に次で盛んで全部機械工場工業である。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額

二、五五七、〇〇〇圓

東京輸出額

一〇、八二四圓

2. 仕向地 (百分率)

支那 三五

海峽殖民地 二〇

英領印度 一五

關東州 一〇

南洋其他 二〇

3. 取引關係

三井物産を通じて輸出したる數百四十四輛、大阪中村商會を通じて輸出したるもの一八四輛である。

◎ 電氣機械

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額 二一、二九九、四三三圓
東京生産額 五、四六八、八七四圓

2. 生産組織

工場數	三七六	一一七	二一	一六	一八	五四八
職工數	二、五八二	二、一二七	八四七	一、二二二	七、四三六	一四、二一四
	五一〇人	二一三〇人	三一五〇人	五一〇〇人	一〇一人	計

電氣機械には種々あつて、發電機は機械的勢力を電氣的勢力にかへる機械で之に直流發電機及交流發電機の二種ある。電動機は發電機の反對に機械的勢力となすもので、直流、交流電動機の二種ある。又電壓を上下する變壓機、交流を直流に或は直流を交流に直す變流機等で、又用波數變換機、回轉變相機等種々ある。之等機械の附屬品としての主なるものを挙げれば發電子、界磁、整流子、刷子、電動子、コイル等である。斯業は神奈川縣に次いで東京盛んで、百人以上の職工を使用する工場十八を算ふ。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額 一、六九六、〇〇〇圓
東京輸出額 四三三、〇〇〇圓

2. 仕向地 (百分率)

關東州 八二 支那 一〇 香港 三 其他 五

3. 其他

本品は外國品に對して設計製作上優劣を認め得られない。取引關係は生産者直接又は貿易業者の手を経て輸出する。

◎ 電話機

一、生産状況

1. 生産額

不詳

2. 生産組織

五一〇人 二一三〇人 三一五〇人 計

工場數	七	四	一	一二
職工數	四六	五一	九三	一九〇

一、輸出狀況

1. 輸出額

本邦輸出額	四五三、〇〇〇圓
東京輸出額	二六〇、〇〇〇圓

2. 仕向地 (百分率)

關東州	九〇	支那	九	北米合衆國	一
-----	----	----	---	-------	---

◎ 金屬木工機及同部分品

一、生産狀況

1. 生産額

東京生産額	一三、五〇〇、〇〇〇圓
本邦生産額	三、五五〇、〇〇〇圓

2. 生産組織

金屬工機械は普通工作機械と稱し、機械工場に於て使用し、金屬を必要なる特種の形狀に變じ、若くは既に成形せられたる金屬に加工仕上げを施すに用ゆる機械で、切削、截斷、穿孔等の作業をなすものである。

旋盤、鑽孔機、直立穿孔及旋削機械、旋刀機、ローリングマシン等多數ある。木工機は木材を挽き割り或は板若は角材とし、又は削平し或は截斷する等種々の工程を施すに用ゆる機械で、其主なるものは鋸切機、木工旋盤、削平機等種々ある。

斯工業は比較的整備したる機械工業である。

一、輸出狀況

1. 輸出額

本邦輸出額	四七二、〇〇〇圓
東京輸出額	一二〇、〇〇〇圓

2. 仕向地 (百分率)

關東州 七〇 支那 二八 其他 二

◎ 印刷機

一、生産狀況

1. 生産額

本邦生産額

九、〇三一、〇〇〇圓

東京生産額

一、八五〇、〇〇〇圓

2. 生産組織

五二〇人

二一〇人

三一〇人

五二〇人

二〇一人

計

工場數

二二

一三

二

一

一

三八

職工數

一二三

二〇七

七四

一

三八〇

七八四

印刷機は普通手引機械、足踏機械、圓筒機械、輪轉機械の四種である。

一、輸出狀況

1. 輸出額

本邦輸出額

五三二、〇〇〇圓

東京輸出額

二〇六、〇〇〇圓

2. 仕向地 (百分率)

支那 五二

關東州 二二

香港 一五

其他 一二

第十六章 雜品

◎ 木材

一、生産狀況

1. 生産額

本邦生産額

七二、三八〇、〇〇〇圓

箱及樽板

其他木材

不明

東京生産額

三、一二〇、〇〇〇圓

箱及樽板

其他木材

不明

2. 生産組織

五二〇人

二一〇人

三一〇人

五二〇人

計

工場數	四六	六五	二二三	一六六	一二四
職工數	三〇三	一、二五〇	一、三四〇	三八六	三、二七九

一、輸出狀況

1. 輸出額

本邦輸出額	一七九四、〇〇〇 <small>圓</small>	東京輸出額	三八五、〇〇〇 <small>圓</small>
箱板及樽板	五、三三七、〇〇〇	箱板及樽板	三五、〇〇〇
其他木材	二、七三七、〇〇〇	其他木材	三五、〇〇〇

本邦から輸出する箱板及樽板の主なるものはセメント樽、茶及ゴム用箱の合板を主とする。

2. 仕向地 (百分率)

箱板及樽板	英領印度 四五	海峽殖民地 二三	蘭領印度 二二	其他 一〇
其他木材	英領印度 四五	海峽殖民地 二三	蘭領印度 二二	其他 一〇

濠洲 二〇 支那 一八 英國 一五 關東州 一〇 英領印度、北米、其他 三七

◎ 麻 眞 田

一、生産狀況

1. 生産額

本邦生産額	三、二一一、六九二圓
東京生産額	二一八、〇三〇圓

2. 生産組織

荏原麻眞田工業組合員には、家内工業的のものと工場工業的のものとある。工場工業者は十五人で各工場十人乃至四十人の職工を使用してゐる。原料はマニラ麻である。

一、輸出狀況

1. 輸出額

本邦輸出額	二、四五八、〇〇〇圓
東京輸出額	三五〇、〇〇〇圓

荏原麻眞田工業組合の調査によれば、輸出品目、數量、價額左の如し。

品目	數量	價額
眞田	二五〇、〇〇〇反	二〇〇、〇〇〇圓
帽帶	一、五〇〇、〇〇〇反	一五〇、〇〇〇圓

- 2. 仕向地 (百分率)
- 英國 六〇 佛國 一〇 北米 一〇 獨逸 一〇 濠洲 一〇
- 3. 其他

本品は貿易業者の注文によつて製造され輸出さる。

◎ 木製品

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額 六九、一七〇、九二六圓
 東京生産額 九、九二五、一七九圓

2. 生産組織

工場数 五一〇人 二一〇人 三一五人 五一〇〇人 計
 職工数 一、七六二 一、二二一 六四三 三七六 四、〇〇二

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額 三、三一四、〇〇〇圓
 東京輸出額 四五〇、〇〇〇圓

2. 仕向地 (百分率)

北米 三五 關東州 一四 支那 一二 英國 一〇 伊國 八 其他 二一
 ◎ ブラツシュ

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額 二六六、五三六圓
 東京生産額 五九、六六〇圓
 齒用 二〇、二五、三〇六 齒用 一六、一五〇
 其他 六四〇、〇四二 其他 四三、五二〇

2. 生産組織

工場数 五一〇人 二一〇人 計
 職工数 二二三 二二三 四六

斯業は工場工業的のものは極く少く大部分は下職即ち内職的のものである。即ち製造業者は刷子製作

に要する臺材（木材、セルロイド、骨）毛、針金等の原料を仕入れ下職にだす迄の準備を整へて下職に渡す。下職は臺材を毛殖臺にはさみ端から順次に毛を植ゑ細い針金で引きしめて行くのである。かくして出来た半製品は又製造業者の許に集り茲で仕上げをして問屋に納入されるのである。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額	五、一一八、〇〇〇圓
齒用	三、二二一、〇〇〇圓
其他	一、八九六、〇〇〇圓
東京輸出額	五四、〇〇〇圓

輸出の主なる品目はクイル刷子、カルカヤ製洗刷子、齒、ペイント、晝、頭、服、靴等の刷子である。東京輸出刷子同業組合の昭和三年度輸出刷子統計表 自昭和三年四月一日、至昭和四年三月三十一日は次の如し。

月次	數量	價額	輸出先
昭和三年四月	三〇、二五二打一〇本	二、七三〇、四二〇圓	北米、布哇、支那
同 五月	四〇、一七三打 六本	三、七七九、一八〇圓	北米、南米、布哇、支那、北樺太

同 六月	三二、四二九打 八本	六、一〇二、三三〇圓	北米、南米、北樺太、布哇、支那、加奈陀
同 七月	三五、三一七打	三、〇四六、二二〇圓	北米、南米、布哇、支那
同 八月	五二、九三八打 六本	四、七八三、一〇〇圓	北米、南米、布哇、支那
同 九月	七七、五九一打 一本	三、八八二、六〇〇圓	加奈陀、布哇、支那、北米
同 十月	七三、九九五打 八本	四、四一三、七六〇圓	北米、支那、布哇
同 十一月	六〇、四七三打 八本	五、三〇九、六四〇圓	北米、南米、加奈陀、布哇
同 十二月	一一五、六五四打一〇本	八、六四二、九六〇圓	支那、南米、加奈陀、布哇、北米
昭和四年一月	一七、三七五打	七三二、四〇〇圓	北米、布哇
同 二月	九五、二九七打 七本	六、八三〇、六〇〇圓	北米、布哇、支那
同 三月	三〇、三七九打 六本	三、七一六、五九〇圓	北米、南米、布哇
合計	六六一、八七八打一〇本	五三、九六九、八〇〇圓	

2. 仕向地（百分率）

北米	五〇	南米	二〇	支那	一〇	布哇	一〇	其他	一〇
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

◎ 電球、ランプ及同部分品

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額	二七、二九〇、八五三	東京生産額	一三、八〇二、七五九
電燈球	二六、三二五、四二二	電燈球	一三、三二一、五三三
ランプ	九七五、四三一	ランプ	四九一、二二五

2. 生産組織

電燈球工場	五一〇人	二一三〇人	三一五〇人	五一二〇〇人	一〇一人	計
工場數	七四	七五	一三	一一	四	一七七
職工數	五一〇	一、二三二	四七九	八九〇	八七七	三、八八八

電球の生産額は東京第一位で本邦生産額の二分の一に達する。斯工業は職工五十人以上を有する工場十五、それ以下の工場百六十二ある。

一、輸出状況

1. 輸出額	本邦輸出額	八三七〇、〇〇〇	東京輸出額	三七九、〇〇〇
	電燈球	四、五二一、〇〇〇	電燈球	三、四六、〇〇〇
	其他	三、八三七、〇〇〇	其他	三五二、〇〇〇

本項には電球及ランプ口金、ソケット、シェードホルダー等の如き附屬品をも包含するも右の内電球は大部分を占め輸出額は前年より九十五萬六千圓即ち約四割の増加を示し頗る好況を示したのである。而して本邦輸出額の七十六パーセントは東京商品である。

2. 仕向地 (百分率)

北米合衆國	六八	關東州	七	支那	六	加奈陀	四	香港、英領印度、海峽植民地	
蘭領印度、比律賓、暹羅、濠洲、其他	一五								

3. 取引關係

電球の輸出は大工場生産品のみで、即ち東京電氣株式會社、大同電氣株式會社、加藤電球製作所、大和電氣商會、光球舎、東京北野商會は専ら大球の透明球及若干の瓦斯入球を直接或は横濱の宮部未高商會、中村貿易商會、其他外人の商館から輸出し、クリスマス球及豆球は鈴木商會、高岡電球製作所、荒川電氣商會、兼光電氣商會等の製品が前記の横濱商館から輸出せらる。

4. 其他

電球の販路は主として支那及南洋並北米合衆國方面である。輸出電球の種類は重に二百二十ボルトの透明球多く近時幾分瓦斯入球をも輸出する。本年に於ける單價は二百二十ボルト一個當り十三錢で前

年の十五六錢に比して低下したのである。之れ一面には支那人の内地事情を知ると共に價額を値切るに至りたるも他面には内地製造業者の競争猛烈となつたのに因る。尙近時海外の情報を綜合すれば大體次の如き缺点を指摘してゐる。即ち

- 一、全体として体裁が歐米品に比し見劣り著しいこと
 - 二、商標或は表示せらるべき文字に留意せないこと
 - 三、フィラメントが歐米品に比し赤味を帯ぶること
 - 四、ベースの不完全なること
 - 五、交流及直流に堪へ得る様研究の足りないこと
- 以上の如き缺點並に不注意等は本品の輸出業者並に製造業者に於て充分研究考慮し以て是等の苦情の起らない様注意を肝要とする。

◎ 行季、旅櫃、提囊類

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額	九、二二九、〇〇〇圓
東京生産額	七〇八、〇〇〇圓

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額	一六三、〇〇〇圓	東京輸出額	三三九、〇〇〇圓
革製	四一六、〇〇〇	革製	二八四、〇〇〇
其他	一、二〇六、〇〇〇	其他	五五、〇〇〇

2. 仕向地 (百分率)

革製

關東州	一九	蘭領印度	一五	支那	一二	海峽殖民地	一〇	香港	九	其他	
-----	----	------	----	----	----	-------	----	----	---	----	--

三五

其他

蘭領印度	三三	關東州	一七	英領印度	一六	支那	五	其他	二九
------	----	-----	----	------	----	----	---	----	----

◎ 造花

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額	六九、五〇〇圓
-------	---------

東京生産額

一六、〇〇〇圓

2. 生産組織

本品は婦女子の衣服、帽、頭髮或は室内の裝飾に供するため、植物の花葉、枝莖等を巧みに模造したもので、多く鐵線或は銅線を以て枝の中心、花の莖等を製し、之に綿布或は絹布を被覆し、葉は其の形狀に従つて綿又は絹を截斷して作り、花辨も亦花の種類に従て綿又は絹を其形に截斷して巧みに着色して製するものである。斯工業は主として手工的家内工業である。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額

二五〇、〇〇〇圓

東京輸出額

一三五、〇〇〇圓

2. 仕向地 (百分率)

北米合衆國 九〇

海峽殖氏地、關東州、獨逸、其他 一〇

3. 取引關係

主として貿易業者又は造花材料問屋の手を経て輸出する。直接生産者の輸出するものは一割に過ぎない。

◎ セルロイド玩具

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額

一、五三九、三三五圓

東京生産額

一、三二三、三三五圓

東京セルロイド同業組合の調査によつて東京セルロイド製品の生産額を見れば次の如し。

品目別	昭和三年		昭和二年		昭和元年	
	數量(打)	價額(圓)	數量(打)	價額(圓)	數量(打)	價額(圓)
輸出向						
櫛	二〇、四五〇	二〇、三六六	一四、六七〇	一一、四五五	一五、〇〇〇	一四、五六八
玩具	五、五四九、二二四	二、八八四、九六六	五、六一〇、六五七	二、八七一、五三七	二、三六九、〇一〇	二、四三九、八九二
計	五、五六九、六六四	二、九〇五、三三二	五、六二五、三三七	二、八八三、九九二	二、三八四、〇一〇	二、四五四、四六〇
櫛	三〇八、一七四	二、六八、二二二	二〇七、一八〇	一、八六、四五二	一一四、二八八	一一三、三七六
玩具	九、二四六、三八七	二、七六二、〇三四	二、四〇四、五六〇	二、〇一九、八三〇	三、三〇二、九五五	三、二一九、九〇〇
文具雜貨其他	一五〇、三八二	二、四〇、六一一	一四九、一六〇	二、四〇、四五六	一、二六、二〇〇	二、五七、四四八
計	九、七〇四、九四三	三、二七〇、八四七	二、七六〇、九〇〇	二、四四六、七三八	三、五四三、四四三	三、五九〇、七二四
内地向						
計						一一二五

總計

一五、二七四、六〇七 六、二七六、一七九 八、三八六、二二七 五、三三〇、七三〇 五、九二七、四五三 六、〇四五、一八四

以上の表によれば東京セルロイド製品は殆ど玩具と看做すことが出来る。

参考までに大阪セルロイド製品生産額(大阪セルロイド同業組合調査)を掲ぐれば左の如し。

品目別	昭和二年		昭和元年	
	數量(打)	價額(圓)	數量(打)	價額(圓)
玩具	三、一一〇、五四四	三、四三二、一五九	五、三一九、九九	四、〇三、六七五
輸出向 其他	三、一〇七、二二五	三、〇八五、四八三	三、四八八、三五八	一、三三三、二六一
計	三、四四九、三七四	三、四九三、七四	二、九八八、四二九	三、一三三、六九〇
玩具	一、九八、二八〇	一、二四、九一六	一、七六、五三八	一、三三、二六一
内地向 其他	三、三四五、〇三七	三、四六九、九五三	二、九八八、四二九	三、一三三、六九〇
計	三、四六九、九五三	三、四六九、九五三	二、九八八、四二九	三、一三三、六九〇
總計	六、九一九、三三七	六、九一九、三三七	六、六二一、〇四八	六、六二一、〇四八

本邦に於けるセルロイド製品生産額は大阪第一位で東京これに次ぐと雖もセルロイド製玩具に於ては昭和二年生産額大阪四六七、〇七五圓に對し東京は四、八九一、三六七圓で嶄然頭角を現し、東京重要輸出商品の最たるものである。

2. 生産組織

セルロイド工業

工場數	五二〇人	二一三〇人	三一五〇人	五一二〇〇人	一〇二人	計
職工數	八〇	一六	四	一	六	一〇七
	五六四	二四二	一六二	五九	一、三〇四	二、三三〇

玩具の最多數を占むる吹込物(プレスによつて製造するもの)にあつては製造工程複雑で大工場即ち動力設備あり多人數の職工が分業的に作業を爲し得る完全なる設備を有する工場の外は大概其工程中機械的作業(プレス)のみを爲し他の容易なる部分は工場外の下職に委託する。而して右の内機械的作業をなす工場の大部分は工場工業的のもので他は家内工業的のものに屬する。玩具以外の製品は主として工場工業的のものである。

下職を大別すると次の三種となる。

- (一) 取付屋、吹込後の接合部の喰出除去及手足等の取付を行ふ。主として工場附近の婦女子の内職である。
- (二) 磨屋、玩具の磨きをなすものは大物又は上等物で普通之をなさない。必要あるときは磨屋之をなす。

(三) 彩色屋、一般セルロイド製品の彩色を行ふ。彩色するときには製造者から見本の供給を受け、染料は自己の計算で購入し、加工賃と共に支拂ひを受ける。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額	四、二二九、〇〇〇圓
東京輸出額	三、二二六、〇〇〇圓
セルロイド玩具	一五、〇〇〇圓
櫛	一五、〇〇〇圓

2. 仕向地

横濱港輸出の仕向地別價額は次の如し

仕向先	昭和三年(圓)	昭和二年(圓)	昭和元年(圓)	大正十四年(圓)	大正十三年(圓)
支那	三、一六四七	二、二六六	四三、二四三	三〇、八九五	二〇、八七六
英領印度	一、二七、八〇九	一、二四、〇七六	七四、一八二	六〇、六五四	三三、三九三
英吉利	四三六、九四三	七六、七九四	六九、七〇四	七五、七〇五	三六、七六六
佛蘭西	四、一〇〇四	一七、〇八二	三三、一六六	九、二四五	—

獨逸	一八三、四九三	八三、五一一	五六、〇一三	四、六六四	九八
伊太利	四二、八〇〇	四九、六七三	九四、三六三	一〇七、三八四	三六、〇三三
北米合衆國	一、五三、七五九	一、四三、五八八	一、九七七、三六六	一、五六、五八九	九四八、三九八
加奈陀	九九、六五五	八三、八七六	六六、五〇二	四四、三三一	三五、一一〇
墨西哥	六九、三三三	四三、五〇四	八七、四二二	八二、五八三	三〇、六三三
亞爾然丁	一八一、六四六	一八一、三二四	一一七、六七八	一五〇、五三四	一〇一、一八四
伯刺西爾	三四、五九一	四〇、三八五	六七、六一四	一五三、五八八	五一、九三四
喜望峯殖民地	四三、五二七	五三、二二三	六一、五六六	四七、三七三	四四、〇〇五
濠太刺利	一四六、八五三	一〇三、〇六四	二〇一、二七六	二五四、二三八	一五一、〇九七
其他	二六九、六六四	二八八、五六五	二四三、一七二	二三一、四六一	一二四、八五五
合計	三、二六三、三二二	三、二九二、五三三	三、八三三、二四三	三、五〇〇、六六五	一、九四五、九五三

即ち主要販路は北米、英吉利、南米及獨逸等で、昭和三年の對米輸出額百五十一萬四千圓、總輸出額の四割六分で第一位を占め、英國の四十三萬七千圓、南米の二十七萬九千圓、及び獨逸の十八萬二千圓之に次いでゐる。而して昭和三年の輸出額は三百二十二萬六千圓で、昭和元年に比して五十八萬六千圓(一割四分)の減少である。こゝに注目すべきは英國の四割四分強の激減、其他喜望峯殖民地、

海峽殖民地地方の減退である。

英吉利の四割四分強の減退は主として内地當業者に於ける激烈なる競争の爲め粗悪品を輸出し單に寸法を合せるのみに止まると云ふが如き状態で品質が低下したので著しく信用を失墜したのと一方英國皇帝御不例のため幾分市況沈滞の状態であつたのと他方には近時獨逸人造樟腦の發達は同國に於けるセルロイド工業の勃興となつて獨逸製セルロイド玩具は盛んに英米兩國に進出して本邦製セルロイド玩具の市場を蠶食したので本邦セルロイド製玩具に一大脅威を與へ就中英吉利の如き比較的高價なる玩具の需要地方には獨逸玩具の活躍を見るに至り終に前記の如き著しい減退を示すに至つたのである。其他屬領地喜望峰の如きも同様の原因によつて減退を示すに至つたのである。

3. 其他

本邦輸出セルロイド玩具は殆ど東京製品で輸出先は北米が第一位であるが近時に至つては南米、歐洲、南洋、濠洲、印度、阿弗利加、支那の各方面に相當に輸出せられるに至つたのである。而して東京製品は關西品に比して高級品なると同時に品質も良好である。本品の種類は種々多雜であるが十仙賣りのものとしては彩色人物、小鳥類、十五仙賣りとしては舞踏黒奴少女等二十五仙賣りとしてはラツトルの高級なるもの及人物類即七吋より八吋、十吋迄の彩色人形、軍人其他動物等である。又近時輸出旺盛を極めたゼンマイ仕掛のセルロイド人形は卸打六圓五〇錢八圓五〇錢程度で歐米、南米殊にヅエネズエラ、コロンビア等方面に輸出し殆ど製造は追はれる状態である。今是等各方面別の嗜好を聞

くに南米方面は主として裸人形大小ガラガラ等で歐洲方面は専ら彩色人形の高級なるもので裸人形ガラガラ之に次いでゐる。南洋、濠洲、印度方面は裸人形を主としてガラガラ之れに次ぎ、北米は十仙賣の起上りガラガラ十四吋前後の彩色人形から十五仙乃至二十五仙賣りのもの最も多く阿弗利加方面は裸人形の嗜好多く支那方面は小形の彩色人形ガラガラ裸人形の順位である。

以上の外年末に至つてはイミテーション、アイボリー成品即外部はセルロイドのアイボリー板又はブロンズ色彩したのを使用し内部に石膏を流し込んだ一種の美術品とも認めらる可き裝飾品、床の置物、置時計の飾、動物、人物、本立（ブックエンド）の如きもの盛んに製作せられ輸出も相當の額に上つてゐるやうである。本品は専ら歐洲、ロンドン市場に輸出せらる。勿論單價は一般セルロイド玩具と異り一個當り最低五、六十錢のものから最高七、八圓に達するものがある。

製品は殆ど東京ローヤルセルロイド株式會社に於てのみ生産せられるものである。其他飛行器（絹張りもの）水中花（紙製）等も相等の額輸出せられてゐる。次に昭和二、三兩年の一般玩具の單價を比較すると三年は前年に比し約一割方下落したが之主として當業者間に於ける競争の結果一般に單價を低下したものである。尙セルロイド玩具に於ては原料樟腦の價格低落によつて原料生地の低下に追従したものである。更に爲替關係から之を見ると大體に於て著しい影響はないが尙三月頃迄は爲替の反落によつて自然輸出を刺戟したが四月以降は金解禁の豫想人氣によつて爲替相場昂騰するに伴れて輸

出を仰制した傾向があつて之が爲めセルロイド製玩具は三月頃迄は何等著しい變化がなかつたが三月から五、六月頃爲替昂騰の影響を受け稍不良となり六月以降九月迄は稍良好を示し十一月迄は堅實の歩調を辿り十一月以降は米國イースター用としての輸出も漸次旺盛を極め玩具全體としても好轉するに至つたのである。東京セルロイド製品で輸出されるものに玩具の外櫛があるが其生産額及輸出額共に僅少で取るに足らない。玩具以外のセルロイド製品の生産及輸出は關西地方に集中してゐる。直接生産者で輸出するものは五指を屈するに過ぎない。主として問屋、商館から輸出する。

◎ ゴム玩具

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額
東京生産額

三、〇六四、八二九圓
二、三五四、一三四圓

東京ゴム同業組合の調査によるゴム製品の生産額は次の如し。

品目	昭和三年	昭和二年	昭和元年
毬類	一、二〇四、〇〇〇圓	一、三六八、〇〇〇圓	一、六九六、〇〇〇圓
ゴム風船	七六〇、〇〇〇	六五〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇

人形類	七〇〇、〇〇〇	三七六、〇〇〇	一五八、〇〇〇
タイヤ	三、〇五五、〇〇〇	二、三八七、〇〇〇	三、〇二二、〇〇〇
中袋	一六二、〇〇〇	三九六、〇〇〇	三六七、〇〇〇
ゴム管	一、六一五、〇〇〇	一、二一六、〇〇〇	一、五八八、〇〇〇
ゴム板	五五三、〇〇〇	二七四、〇〇〇	三六八、〇〇〇
機械用品	一、二四〇、〇〇〇	一、〇二六、〇〇〇	九〇一、〇〇〇
靴類	一、六一〇、〇〇〇	一、〇三六、〇〇〇	二、五四二、〇〇〇
底物	二、四七〇、〇〇〇	一、二二三、〇〇〇	二、一五八、〇〇〇
エポナイト類	七四七、〇〇〇	一、一七三、〇〇〇	一、〇一九、〇〇〇
字消ゴム	九六、〇〇〇	二一九、〇〇〇	一八二、〇〇〇
爪掛	三九、〇〇〇	一〇五、〇〇〇	一一二、〇〇〇
自轉車用品	五二六、〇〇〇	三八、〇〇〇	八四、〇〇〇
醫療用ゴム	七五〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	四八〇、〇〇〇
布引ゴム	四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	三、二〇〇、〇〇〇
雜品	八〇〇、〇〇〇	七二〇、〇〇〇	一、〇八六、〇〇〇

總計

二二,三二四,〇〇〇

一六,四九七,〇〇〇

一九,四六五,〇〇〇

東京ゴム製玩具生産額は本邦生産額の三分の二以上に當り、大阪、兵庫之に次ぐ。

2. 生産組織

ゴム工業

五、一〇人

二、一三〇人

三、一五〇人

五、一〇〇人

一〇二人

計

工場數

四四

六四

一九

九

六

一四二

職工數

三一

一、一四七

七三五

六〇九

九七三

三、七七五

玩具にあつては大工場即ち、多人數の職工が分業的に作業をなし得る完全な設備を有する工場の外は一定の工程まで自己の工場で行ひ、以後の諸工程を工場外の下職に委託する。下職には (一) 取付け

(二) 縁切り (三) 彩色 等がある。

ゴム製玩具には硬質ゴム製品と薄層ゴム製品の二種がある。而して玩具製造業は多くは他のゴム製品製造を兼ねてゐる。

生産組織は大規模で組織的なものが多いと共に又小規模なる家内工業的のものも少くない。

一、輸出狀況

1. 輸出額

本邦輸出額(玩具)

一、九三四、〇〇〇圓

東京輸出額

三、一八〇、〇〇〇圓

玩具類

九五〇、〇〇〇圓

靴類

二〇〇、〇〇〇圓

タイヤ及中部

五〇〇、〇〇〇圓

雜品

六〇〇、〇〇〇圓

雜品中にはホース類等を大物とし、小物としては醫科器械部分品があり其他日常使用の器具類の部分品全般に互つてゐる。

2. 仕向地(百分率)

玩具

英領印度 二二

北米 一二

蘭領印度 一一

支那 八

亞爾然丁 七

香港 六

英國 五

海峽殖民地 五

其他 二四

ゴム製玩具の本邦輸出品目は毬類、人形類、ゴム風船等で前年に比し二割六分の増加率である。ゴム製玩具は印度、支那方面に需要多くて重に毬、風船類で毬は主として東京物で風船は大阪方面の安物多く輸出せらる。

東京ゴム製玩具の仕向地は東洋方面殊に英領印度、蘭領印度、支那、香港、海峽殖民地を主とし輸出額の六割を占む。品目は毬を主とする。次に北米で毬、人形、風船、等を輸出し南米には北米經由のものが多い。歐洲諸國にも相當輸出さる。此等海外市場に於て競争品は獨逸製品を第一とする。

◎ 金屬製玩具

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額

七九六、六一九圓

東京生産額

五六二、一七〇圓

東京玩具製造同業組合の調査によれば數量百三十二万六千六百五十五打 價額 百六十二萬三千七百七十圓である。本邦に於ける最重要生産地である。

2. 生産組織

斯業者百二十あるが大部分は家内工業的のもので職工五人以上を有する工場は二十に過ぎない。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額

一、三五一、〇〇〇圓

東京輸出額

七三〇、〇〇〇圓

東京玩具製造同業組合の調査によれば輸出數量三十一萬三千五百五十打、價額四十四萬千八百三十九圓である。

2. 仕向地

主として南洋、南米、印度方面である。

3. 其他

本品はすべて問屋か又は貿易商館の手を経て輸出せらる。

◎ 布帛製玩具

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額

不明

東京生産額

一三〇、〇〇〇圓

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額

八〇五、〇〇〇圓

604
131

東京輸出額

六〇、〇〇〇圓

2. 仕向地

主として、北米、濠洲、英國、南洋、支那、南米等である。

◎ 其他の玩具

一、生産状況

1. 生産額 (東京)

紙製玩具

七六〇、〇〇〇圓

人形

四九〇、〇〇〇圓

木製玩具

四五〇、〇〇〇圓

雛及羽子板

一、四五〇、〇〇〇圓

雜玩具

二、五三〇、〇〇〇圓

2. 生産組織

家内工業的のもの多く工場工業的のものは前者の二分の一位である。

一、輸出状況

1. 輸出額

本邦輸出額

二、六七八、〇〇〇圓

東京輸出額

一、三三〇、〇〇〇圓

紙製玩具

三〇〇、〇〇〇圓

人形

六〇、〇〇〇圓

木製玩具

二二〇、〇〇〇圓

雛及羽子板

一一〇、〇〇〇圓

雜玩具

六四〇、〇〇〇圓

2. 仕向地

主として北米、濠洲、英國、南洋、支那、南米等である。

◎ 肥料

一、生産状況

1. 生産額

本邦生産額

九八、四二二、三四三圓

東京生産額

二一、三二一、四九四圓

2. 生産組織

工場數	五二〇人	二一三〇人	三一五〇人	五一〇〇人	二〇一人	計
	一〇	二一四	二一四	四	一	一九
職工數	七一	七六	二六五	一七二	五八四	

本品は磷酸肥料と調合肥料とに分つことが出来る。磷酸肥料中で主なるものは過磷酸石灰及重過磷酸石灰で、過磷酸石灰は磷礦石を粉碎して之に適量の硫酸を注ぎ能く混合し生成したる硫酸石灰に水分を吸収せしめ、乾燥したる後之を粉碎し粉末となしたるもので、其主成分は溶解性の磷酸石灰及硫酸石灰である。重過磷酸石灰は可溶性磷酸塩の水溶液を蒸發したる後、石膏を分離して製せらる。調合肥料は完全肥料とも稱し、作物の種類、土壤に應じ必要な肥料成分即窒素、磷酸、加里の三要素を混合し、製造したもので、原料としては過磷酸石灰、アンモニア、硝石、大豆粕、硫酸加里を使用する。

人造肥料の生産は東京第一位で工場組織も比較的整備してゐる。

一、輸出状況

1. 輸出額

東京輸出額

四三、〇〇〇圓

2. 仕向地(百分率)

比律賓 七〇 關東州 一六 支那 一四

本品の輸出は東京第一で、輸出先は比律賓遙に群を抜き地理的關係有利なる支那は需要少い。競争品は主として米國品で英、白耳義品之に次いでゐる。

604
131

附録第一

◎ 昭和三年 本邦、横濱港、東京製品輸出額

	本邦	横濱港	東京	本邦	横濱港	東京
生絲	千円	千円	千円	千円	千円	千円
綿織物	七三、六九七	五五、四〇九	—	一三、六六四	—	—
生金巾	三三、二二七	三、四六七	七、五九四	一、二七四〇	—	二、六〇
生シーチング	六九、八〇九	—	二、三三三	八、九六一	—	—
晒金巾	二五、五三二	一、四五	五、五〇	八、五九九	—	—
晒シーチゲ	二、五八〇	七〇	四、五〇	六、八三一	二、六三五	—
縞子	六、一〇四	—	二、九五四	三、四三四	—	—
細綾	四、一〇一	—	一、〇〇	一、五五八	—	—
綾木綿	二〇、二三三	—	四	八〇〇	—	—
縞木綿	一八、一〇五	—	—	三、四四二	六、七	一、〇〇〇
縮緬及壁織	—	—	—	—	—	—
富士絹類	—	—	—	—	—	—
羽二重	—	—	—	—	—	—
ボンジー	—	—	—	—	—	—
縞子	—	—	—	—	—	—
琥珀織及 ポプリン	—	—	—	—	—	—
其他	—	—	—	—	—	—
綿織絲	—	—	—	—	—	—
二十番迄	—	—	—	—	—	—
其他	—	—	—	—	—	—
紙類	—	—	—	—	—	—
印刷用紙	—	—	—	—	—	—
板紙	—	—	—	—	—	—
煙草用紙	—	—	—	—	—	—
半紙及美濃紙	—	—	—	—	—	—
包裝用紙	—	—	—	—	—	—
鳥の子紙	—	—	—	—	—	—
雁皮紙及 薄葉紙	—	—	—	—	—	—
連史紙	—	—	—	—	—	—
塵紙	—	—	—	—	—	—
吉野紙及 典具帳	—	—	—	—	—	—
其他	—	—	—	—	—	—

	本邦	横濱港	東京	本邦	横濱港	東京
絹織物	一三、〇五九	五、八六五	—	二五、八九四	八、二九	一、三三五
縮緬及壁織	三、五七三	一、六一七〇	—	七、九八七	—	—
富士絹類	三、五六三	一、二、三六	—	一、七、九〇七	—	—
羽二重	三、三〇三	一、四、八六五	—	二、五、六七二	一、八、三三	四、六、七六
ボンジー	一、二、六七六	八、三、九〇	—	一、二、九、三八	八、二六	三、一、三〇
縞子	六、二、二四	二、〇、三八	—	二、六、六一	一、六、一	三、二、一
琥珀織及 ポプリン	四、〇、一〇	一、四、〇	—	二、一、九一	一、三、〇	—
其他	六、七、〇	一、二、六	—	一、三、四一	—	—
精糖	三、八、四、四	一、一、〇、五五	六、六、五	一、三、八四	—	五、五
陶磁器	三、四、六、四三	一、二、八、三	一、四、一	一、二、七、九	一、六、三	—
メリヤス製品	三、三、三、〇一	一、二、五、二	三、三、七	七、六、八	二、四、五	二、五、〇
綿メリヤ スシヤツ	二、七、三、七六	四、一	一、二、六	五、六、六	—	一、三、〇
メリヤス靴下	四、八、七	九、〇	一、八、三	四、八、三	—	五、〇
メリヤス サルマタ	六、三、七	—	—	四、六、四	二、六、四	—
メリヤス手袋	四、六、七	一、二、一	三、一、九	一、六、九、三	四、九	七、五、〇

プリキ製品	一、三五九								
傘骨	七一九								
鐵釘類	五、六七								
縫針	五、五三								
其他	四、〇四〇								
硝子及同製品	一、二、九四一	二、五九		四、〇四	五、九三三				
罐類	四、五一六	六			一一、八四八	三五三			
コップ	二、三六五	一一九			一一、七五五	三五三			
鏡	二、一九四				九二				
魔法鏡	一、五三五				二、〇〇〇	五、七五五		六、八三六	
珠玉及球	六〇一				セルロイド製	四、二二九		三、二二六	
其他	一、七三九	六二			ゴム製	一、九三四		九五〇	
屑絲及眞綿	一、二、五四七	一〇、二〇六			木製	四九八		四五〇	
屑絲	九、九三二	八、三八六			其他	四、三三八		二、二一〇	
ペニー	一、八六七	一、八二〇			車輛及同部分品	一〇、六八五	三三一	一、〇一一	

一五五

穀粉及澱粉類	二五、一八一	一五、二一九	三、三一〇	三、三一〇	錫	三、二九一		
小麥粉	二四、七七八	一五、二〇八	三、三一〇	三、三一〇	昆布	二、八一八		
其他	四六二	二			鮮魚介	一、八八九		
石炭	二四、五三三				貝柱	一、五〇五	九	
罐詰詰食料品	三三、〇三一	一九、二一〇	五二五	五二五	煎魚	一、四三〇		
蟹	一八、五七三	一八、二五九			乾鱈	一、四三三		
鮭及鱈	一、〇九八				海參	九六五	二	
鮑	四一三				乾鮑	八二一	三	
其他	二、九四五	一、〇五一			乾蝦	五三五	五	
木材	一七、九六四	一、〇六一	三八五	三八五	鱈鱈	四四四	二	
箱板及樽板	五、三三七	七	三五	三五	塩鮭及塩鱈	三五七	二	
燐寸用軸木	一、五三六				鯉節	三〇五	八	
同 經木	九九六				其他	一、五九二		
其他	一〇、二〇二	九九〇	三五〇	三五〇	鐵製品	一三、六八三	八七三	八〇三
水産物	一七、三七五	二二二			珧瑯鐵器	六、四四四		一九

一五四

大豆油	大豆	木蠟	菜子油	植物性脂肪油	藥材化學藥及製藥	セメント	除虫菊	其他	清酒	麥酒	酒類	其他	骨角製	貝製	鈕釦
一、六二五	二、〇八八	二、一〇五	六、〇二二	六、〇三三	六、八八五	七、四八七	二、九一九	四、四二二	七、五五五	五、六一	六、五三三	七、六五三	五、六〇	五、六〇	七、六五三
				二、一五二	二、九			三、八二	三、八二						
				二、一三三	三、一三三			三、五六	三、五六						
鐵	燐寸	其他	衣服用	髮用	齒用	絹手巾	樟腦	其他	線	條及竿	板	眞鍮	其他		
四、八四六	五、一七	六、九七	四、二六	七、七三	三、二二一	五、二一八	五、四四七	一、三〇	四、〇一	一、二二七	三、八二七	五、五七六	二、〇三		
一五七	四三八	一六			九	二五									
一五〇					二、三二〇	二、三二〇									

大豆	豌豆	豆類	其他	唧筒	木工機械	金屬工及	印刷機	電氣機械	紡績機、織布	機及同部分品	機械、同部分品及附屬品	其他	同部分品	同部分品	自轉車及	人力車及	同部分品	同部分品	ゴムタイヤ
四七三	四、五九五	一〇、四〇〇	四、四一〇	四、一八	四、七三	五、三二	一、六九六	三、〇七二	一、〇六四	一、九〇四	二、五七	五、七三	四、九七	二、五七	五、七三	五、七三	五、七三	五、七三	五、七三
七		一八	一、三七七	二五	一八	一〇六	四五一	四四	二、〇二一				三、三一						
			一、〇五〇	一五〇	一三〇	二〇六	四三三	四四	一、九五九	二〇〇	三、一〇	五〇〇	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
其他	人造眞球	セルロイド製櫛	硝子腕輪	身邊裝飾用品	魚油及鯨油	其他	電球	ランプ同部分品及附屬品	其他	革製靴	ゴム靴	履物	スリッパ	其他					
一、七六七	三、八八六	七、八五	一、五七七	八、〇一七	八、一六二	三、八三七	四、五三二	八、三七〇	四、一〇九	二、一〇	三、八八三	八、五五〇	五、五七	二、九四					
七七					三、五七六	七〇八	三、四四六	四、一五四		七四		二、三三	一、五八	一一					
八〇							三、四六六	三、七九八	一、〇〇〇	一、二〇〇	二、〇〇八	二、五二八	二、〇八						

敷布	其他	板	線	銅	其他	絹布張	綿布張	洋傘	百合根	其他	香水及香油	化粧用クリーム	齒磨粉	調製薰香類
二,三三二	三三三	五六三	一,五九九	二,五〇五	一六	六四九	一,八五一	二,五二七	二,五三四	六四三	五四一	六〇一	七六八	二,五五三
		五一	九六七	一,〇三八				八五	二,三二九	四二	三三	二	一七	
		五一	四六	九七						二〇	二〇	二〇	三五〇	九〇
蓆類	肥料	きもの	染料顔料塗料及填充料	漆器	掛時計及置時計	其他	絹製	縮製	縮製	椎茸	薄荷油	其他	化粧用	石鹼
一,四九二	一,五三三	一,七〇〇	一,五二五	一,七二三	一,七四一	三七二	三四三	一,〇八五	一,八〇一	一,九六四	二,〇七五	一八〇	一九〇八	二,〇八八
	五四三	九七八	六六	八三三	一八四	二八三		五	二八八	一三三	三三六	三九	一〇四	一四三
	四		一〇〇		五九四	二八三		五〇	三三三			三九	一〇四	一四三

一五九

寒天	其他	林檎	蜜柑	果物及核子	其他	麥稈製	麻製	製帽用真田	屑綿及屑綿絲	其他	屑及故	線索	筒及管	條竿及板
四,四二二	八八五	五三八	二,八七四	四,三九六	六五	二,一九二	二,四四八	四,七二七	四,七五七	三六二	八八二	五三〇	七九二	二,二八八
二八							六三九	六三九		一〇		四〇	二五六	一三三
							三五〇	三五〇		五		一四〇		五
絶縁電線	綿ブランケット	船舶	毛皮	木製品	其他	モスリン	羅紗及セルヂス	毛織物	綿タオル	其他	馬鈴薯	玉葱	野菜	薄荷腦
二,七六五	二,七六七	二,八三〇	三,〇二四	三,三二四	一九六	五二八	二,六一五	三,三四〇	三,三九五	一,〇七九	一,二二四	一,三八六	三,五九〇	三,九一四
一,二五七	一七		一一七五	三五六		一五四	二二二							五九三
一,二三八				四五〇		一五四	二二二	三六六						

一五八

竹材	八九三			硝酸	五六七			四〇
アルミニウム製品	八四五			綿縫絲	五六五			
麻繩	八一〇			靴紐	五六五	五		六〇
殺虫粉	八〇八			綿手巾	五六一			三
眞鍮製品	八〇三	二六		コイル染料	五八〇			
屑紙(古新聞紙共)	八〇〇			硫化曹達	五七三	二四		一五〇
傘柄及傘手	七九			麻織物	五七〇	一七		
豚毛	七七八			毛絲	五六六			
ペイント	七〇〇			醫療器及同部分品	五六六	二六		三八五
膠	六九一			腿子	五五九			
ニツケル鍍金製品	六七二	一〇〇		蔬菜漬物	五五七			
洋服	六六五	五九		樂器及同部分品	五五三	二四		七三
鉛筆	六六一	二〇八		爆發藥	五五九			二〇〇
理化學器及同部分品	六三二	五五三		帶類	五五九			
礦油	五八七			ラムプ芯	五三一			

一六一

花筵(單製)	八七三			野草筵	一一八一			
同(連製)	三三三			テロブル	一一三三	七九		
壘表	三八八			皮毛角牙類及同製品	一〇五一	三九		三三九
其他	九			メリヤス地	一〇二〇			
安質母尼製品	一四三〇	一、二〇〇	一、四〇〇	コイルタール及ビツチ	一〇二一			
書籍及雜誌	一三八九	五七七	一、〇七七	革類	一〇〇四	二五		二二五
麻囊	一三八三	三四	三四	樟腦油	一〇〇三			
竹製品	一三五五			インキ	九九六	四五		六三三
行李旅櫃	六五二			氷砂糖	九七五			五
提囊類	七〇三			行李旅櫃提囊類(竹製ヲ除ク)	九七〇			三三九
其他				革製	四一六	一八五		二八四
賣藥	一三四七	一六	三六	其他	五五四	三五		五五
米及粃	一三七七	二〇四		レース絲	九一八			
醬油	一三四六	六九		絹製肩掛	八九五	二九		三五六
漁網	一七三三			硫酸	八九三			一〇〇
其他ノ砂糖及糖菓類	一二一〇	三〇〇	三〇〇					

一六〇

絹製品	二二〇	一五〇	一五〇
トリムミング	二一〇	三〇	八〇
毛製及毛綿製 ブランケット	一三三	三八	八〇
封筒	一三〇	一三	一五
練乳	一二九	八八	一一
銅製品	九一	四三	四五
沃度加里	五〇	四七	四七
雑品	六、一〇二	一、七八八	二、五〇〇
小包郵便物	二四、七〇六	七、八八七	九、三〇〇
合計	一九七、九五五	七四、二九六	七五、七七〇

一六三

煙草	四三五	三八	一	打紐真田紐類	二五〇	八	八
黒鉛	四五二	一	一	造花	二五〇	一六六	一三五
晒粉	四五二	三八	三八	紙箱及紙筒	二八二	一七	一八二
帳簿及手帳	四五〇	五	一〇〇	財布及墓口類	三〇五	四〇	四〇
電話機及 同部分品	四五三	二六〇	二六〇	絲瓜	三〇八	一	一
硫黄	四六四	二二	一	打綿	三五三	一	一
ガゼ脱脂 綿及繙帶類	四八二	三	五〇	繩索及及莖(藁製)	三五九	一	一
扇子及團扇	四九四	一	一	鑛	三七二	一	一
農具及工匠具	五〇二	一四七	一四七	機械用帶革	三九四	一	一
蒲團	五〇六	二六九	三三〇	ワイシャツ	四〇二	六	六
紡績絹織絲	五〇六	二	一	紙製ナプキン	四〇三	五	三
麻絲及麻線	五〇六	一	一	象牙製品	四〇六	二八〇	四〇〇
青銅製品	五三	六	七	鉛丹	四二	一	五〇
レール	五六	一	一	ヨード	四二	一四七	五
ブロンズ工藝品	五〇	一	五五	帳簿及手帳	四六	一	一

一六二

梳毛ノモノ	三二,九二一	其他	一九五	其他	三,六四七	
自動車及同部分品	三二,二四四	其他	一八,二六四	採油用原料	二一,八三一	二,〇八六
自動車	一三,七七〇	菜子及芥子	九,七五一	棉子	四,九〇五	
タイヤー	四,六七一	胡麻子		亞麻子	四,一八四	一,七二〇
シヤワシ	二,八八五	亞麻子		苧麻子	三,〇三八	
其他ノ部分品	一〇,九一七	大麻子	八,五二三	大麻子	二,一七六	
毛織物	三二,二二三	荏胡麻子	七,六〇五	其他	一,五六六	
羅紗、セルヂス、アルバカ(毛製)	一九,五九〇	其他		鐵鑛	二〇,八二二	
同(毛綿製)	一〇,七五三	其他		亞鉛鑛	一六,一七三	
其他	八六九	鑛		其他	九四三	
生ゴム	二七,八九五	鐵鑛	五,〇〇二	其他	三,六九五	
植 物 纖 維	二七,八二一	亞鉛鑛	七,一九九	其他	一四,七二一	七,二二三
(棉花ヲ除ク)	一七,四八〇	其他	四,二八九	鉛(塊及錠)	一六,七	
大麻、黃麻、及マニラ、ヘンプ	六,六九三					
亞麻、苧麻、及ラシ						

原動力機ト結合セル發電機	三四九	小麥	一六六			
水壓機	三三九	砂糖	六七,七七八			四〇,五〇三
其他ノ機械及同部分品	三三,二〇六	色相標本十一號未滿ノモノ	六四,九五八			二五,四五七
礦油	八九,八八三	同十五號未滿ノモノ	二,七七四			
原油及重油	四五,一六二	同十八號未滿ノモノ	一,二一六			
石油(比重〇、八七六二以下ノモノ)	三〇,六八六	同二十二號未滿ノモノ	四,六八四			
機械油等	七,四五二	其他	五五,二三〇			
揮發油(比重〇、七三〇以下ノモノ)	六,五八七	石炭	一,一六三			
豆類	六七,八五七	硫酸アムモニウム(粗製)	三六,九七五			八一四三
大豆	四九,六八一	米及粃	三六,三〇三			一二,六二七
小豆	九,三七七	精米	三三,六七三			九,七〇五
落花生	二,四七〇	碎米	一七,一一〇			
蠶豆	一,三四七	玄米	一五,四二一			
豌豆	一,三〇八	其他	一,〇四六			
其他	三,六七二	毛織絲	八三			
			三三,一〇七			二,二四二

繭	一、五三三	海底電信 及電話線	五六三	六五八	
キヤツシユレジスタ	一、四一一	其他	一	五三九	
計算類及同部分品	一、三八四	カーボンブラック	四五五	一、二六五	三九七
珈琲	一、三三五	木炭(燃料用)	一	一、二四六	一、〇二七
鐵鏈	一、〇六七	ボツブ	一	一、一一四	五五九
自轉車用ノモノ	二六七	屑織絲及屑絲	一	一、一〇九	九二五
其他	一、二八〇	耐火煉瓦	三〇四	一、〇六九	八四〇
調製薰香類	四九〇	ランプ、提燈 及同部分品	三〇四	一、〇一五	
香水	三二〇	寫真器及同部分品	一	一、〇一三	
薰香付油脂 蠟及同製品	四七九	麻織物	一	九七五	二五六
其他	一、二六四	黃麻布	一	四六九	
寫真用紙	一、二五九	其他	一	五〇六	
帽子及帽禮	一、〇六六	製帽用真田	五五	九七三	
フエルト製帽子	一九三	ロンガリツト	一	九四三	
其他	一、二九	其他ノ還元劑	一	九三三	
絶縁電線		セメント	一	一七三	

酒類	二、三〇一	釘類	一、三二六	一七二	
葡萄酒	一、二二七	鐵ウツドスクリユ一	六三六	一、七九四	
ウキスキ一	二四一	其他	三八二	一、〇五五	
其他	四三二	ニツケル(塊及粒)	二九八	七三九	
粟黍及稗	二、二九九	インヂヤラツパー及 ガタ、バーチャ製品	一	一、七四四	
書籍及雜誌	二、二八七	阿仙藥其他ノタ ンニン越幾斯	二、〇五三	一、七三五	
コルク樹皮	二、二六九	醋酸石灰	一	一、七〇〇	
寫真用乾板(現像 セサル)	二、二五六	グリセリン	九三	一、六四九	
鐵道車輛及同 部分品	二、〇九一	理化學器及同部分品	一	一、六四一	三二〇
蔬菜果實及核子	一、九七八	綿織絲	八一九	一、六三四	一、二四二
果實及核子(砂糖糖蜜 等ニテ貯藏セサル)	一、三四三	爆發藥	三四一	一、五六二	一三五
蔬菜(同上)	四八三	ダイナマイト	一	一、五五一	二八〇
其他	一五三	其他	一	八一九	
水銀	一、八六八	籐	一	七三一	
沒食子其他ノ タンニン材料	一、八四三	包蓆	一	一、五四一	三七八

茶	五九八	青化曹達及青化加里	四〇〇	
金液	五九八	酸化コバルト	三九九	
刃物	五八一	ガンニー囊	三九八	
粘土	五三四	重クローム酸曹達	三九四	
酒石酸	五二五	滋養食料	三九〇	
ベアリングボール	四七六	ストーヴ、同部分品、ラ	三九〇	
蝶鍔、ハットフツ	四六六	ヂェートル及同部分品	三八七	
ク、戸、家具用金具	四六六	革布	三八七	
ログード越幾斯	四六二	バター(天然ノモノ)	三八六	
コーヒー	四五六	鉛筆	三八二	
人造絹	四五六	トリムミンダ	三七八	
石炭酸	四四七	蓄音器同部分	三七六	
獣筋	四四六	品及附屬品	三七六	
石膏	四三一	棉子油	三七四	
ブツクバインダ	四二〇	アラビヤゴム	三六一	
ースクローリス	四〇三	印刷用インキ	三五九	
醫療器及同部分品	四〇三	(液泥狀)	三五九	二七三
		電地同部分品	三五四	
			一七五	

樂器、同部分	九二九	安質母尼及硫化安質母尼	一七四	七七八		一九三
品及附屬品	九二九	ペイント	七二七			
滑石及ソーブストーン	九二四	船底塗料	三三〇			
瀝青及土瀝青	八六九	其他	三三六			
ドロマイト及	八五〇	クロール酸加里	七〇九			
マグネサイト	八三六	フツサバ、ルート	七〇九			
綿絲及綿線	五九八	重炭酸曹達	七〇三			
木製絲捲ニ卷	五九八	電氣用カーボン	六九六			
キタルモノ	二二七	製圖器、測量	六六七			
其他	八三四	器及同部分品	六六五			
カゼイン	八一九	壓搾瓦斯填充	六五五			
象牙	七九二	鐵シンリンダー	六五〇			
ペン先	七五四	酒精劑	六四三			
甘草	七五三	硼酸曹達	六二六			
タードフェルト類	七五〇	鹽化アムモニウム	六〇五			
木精	七四六	膠	六〇〇			
研磨用礦物材料	一七三	鉍鉞	六〇〇			
ドリル、ビット、リマ	四九六					
ー及スクリユータツプ	一八二					

604
136

ブランケット及旅氈(單製) 三三七
顯微鏡及同部分品 三三三
タイプライター及同部分品 三三一
鼈甲 三二六
金鋼砂布 三三三
桐油 三三八
獸蹄 三三三
トレーシング、クロース 三三一
クリオライト 三二六
合計 二一九、三二四

六一四、三四三

604
136

